

# Offshore 7 1986

社団法人 日本外洋帆走協会発行 No.136/300円

昭和61年7月15日発行（毎月1回15日発行）昭和52年7月21日第三種郵便物認可



MAY SAIL CHAMPIONSHIPS  
第2R. スタート 於:三河湾

## 日本船舶振興会補助事業

## 頑張ります!

〔ハワイI.O.R.シリーズ'86〕  
壮行会及び結団式

さる6月28日(土) 夕方6時30分より東京千代田区永田町にあるキャピトル東急ホテル(旧ヒルトンホテル)日光の間において1986年8月2日より8月17日までハワイ諸島を舞台として行なわれるハワイI.O.R.シリーズに参加するナショナルチーム艇6隻の壮行会並びに結団式が、70名参加のもと行なわれた。

当日まず大儀見国際委員長より今大会に参加する各艇の経緯、日本船舶振興会補助事業についての説明があり、国際委員会として今大会のナショナルチームキャプテンとして〈スーパーサンバード〉の山崎達光オーナーを選出したことが伝えられた。

山崎達光氏より就任の挨拶及び今後の東、西両ナショナルチームのスケジュール等の説明があった。

つづいてハワイI.O.R.シリーズの冠スポンサーとなられた株式会社ケンウッド社長の石坂一義氏よりスポンサーになった経緯等の説明があり、乾杯の音頭を取っていただいた。

つづいて各艇の御挨拶及びクルーの紹介へと移った。

まず、大阪より今回はじめてハワイI.O.R.に出場する〈セント アポロニア〉三谷惇夫氏より挨拶があり、同伴して下さったクルーの上羽、三船両氏の紹介があった。

つづいて〈ミミ〉の金井準一氏が航空機欠航の為、急遽参加して下さった子息金井裕君より参加者への挨拶があった。

西チームの最後の一艇〈アロハ〉の桑本信幸氏より参加者への丁寧な挨拶があり、クルーの紹介となった。

つづいて東チームへと移り〈ゼロ〉のオーナー津村重孝氏が御結婚なされ旅行中の為、オーナー代理として石坂啓一氏より現在〈ゼロ〉がアメリカのサンディエゴにあり、こののち、ハワイへ回航しレースに参加すること及びクルーの紹介があった。

次に〈瑠璃光〉のオーナー菅原留意氏より、自艇のこと小川直之スキッパー及び萬里小路昌秀チーフデザイナーの紹介等があった。

最後に、今大会のナショナルチームキャプテン〈スーパーサンバード〉の山崎達光氏より自艇の抱負及びクルーの紹介があり、各艇の紹介を終了した。

NORCの会員であり、NC9(NHK)のニュースキャスター木村太郎氏よりヨットと報道についての楽しいお話を聞かせていただき、なごやかなうちにも時が過ぎ、中締めをヤマハ発動機マリン企画室長高木孝氏にお願いし、20時をもって終了した。

なおナショナルチームは別表の通りです。

(記:歌田 道教)



“乾杯” 中央テーブル左より木村太郎、菅原留意、山崎達光、大儀見薫の各氏



ハワイI.O.R.シリーズ'86の冠スポンサーである(株)ケンウッド社長 石坂一義氏

チーム名	艇 名	セールNo.	オーナー名	艇 種	過 去 の 参 加
東チーム	ゼ ロ		津村 重孝	FRE51	レージアルバートロス('82)、ゼロ('84)
	スーパーサンバード		山崎 達光	YAM42	サンバードV('78)、サンバードV('82)
	瑠 璃 光		菅原 留意	KAN45	初参加
西チーム	セントアポロニア		三谷 惇夫	YOK39	初参加
	ミ ミ		金井 準一	TAK39	ミミ('84)
	ア ロ ハ		桑本 信幸	TAK41	初参加



東チーム・東京より参加の〈ゼロ〉オーナー代理石坂啓一氏とクルー 西チーム・広島より参加の〈アロハ〉オーナー桑本信幸氏とクルー



ナショナルチームキャプテンで〈スーパーサンバード〉オーナーの山崎達光氏



西チーム・広島より参加の〈ミミ〉のオーナーの息子 金井裕君



NORC 副会長／国際委員長である大儀見薫氏  
選考についての経緯、経過の説明があった



西チーム・大阪より参加の〈セントアポロニア〉  
左よりオーナーの三谷惇夫、上羽正男、三船清治の各氏



東チーム・神奈川より参加の〈瑠璃光〉オーナー菅原留意氏とクルー

# アメリカズカップへの挑戦 NORCで決定!

## アメリカズカップの歴史

アメリカズカップへの挑戦の歴史は海洋大国である大英帝国の精鋭艇を〈アメリカ〉号が打ち破った時から始まった。

1851年8月22日イギリス本島南端にあるワイト島にイギリス艇14隻とアメリカ艇1隻の15隻が集まってワイト島1周のレースが行なわれた。当時ロンドンでは世界大博覧会を開催中でこの行事に参加すべく〈アメリカ〉がニューヨークヨットクラブの5人のオーナーにより建造されたのである。建造費は当時の金で23万ドルとのことである。この全長102フィート、水線長101.4フィート、セール面積5263スクエアフィートのスクーターが抜群の切上り性能を発揮して、並いるイギリスの精鋭艇14隻を打ちまかしてしまったのである。こうして〈アメリカ〉号はクイーン・ヴィクトリアの銀製の100ギニー・カップを獲得し、ニューヨークヨットクラブにそれを持ち帰った。この時に、“挑戦権は海洋でクラブの年次のヨットレースをやっているヨットクラブであれば、どの国のクラブであってもオープンでチャレンジできる”ことを宣言した。その後このカップを“アメリカズカップ(1対1のマッチレース)”と言うことになった。イギリスはこのあとカップ奪回のための長い長い戦いにいどむのである。

1851年イギリス国内ではこのカップ奪回の為にまず当時の富豪、サー・トーマス・リプトンが1899年に〈シャムロック〉を造り、挑戦したがストレイトでアメリカの〈コロンビア〉に敗れてしまう。このあと1901年〈シャムロックⅡ〉1903年に〈シャムロックⅢ〉1920年に〈シャムロックⅣ〉で挑戦するがいずれも敗れてしまった。1920年大会まではカブリグの全長120～130フィートの大型艇での戦いであったが、あまりにも費用がかかる為Jクラスポートへと移行していった。Jクラスポートとして初めてのレースが1930年に行なわれ彼は5たび〈シャムロックⅤ〉で挑戦するも敗退してしまう。6度めの挑戦艇〈シャムロックⅥ〉を建造半ばにして死んでしまったのである。

## Jから12に変わったこと

1958年の大会より、それ以前に使用されていたJク

ラスがあまりにもお金がかかりすぎるとの理由で、現在使用されている12メートルクラスへと変更になった。安くなったとはいえ、12メートルクラスポート1隻を建造するには4～5000万円の費用がかかり、このほか1年間のクルーの件費、食費や、トライアルホース購入等々を考え合すると数億から数十億の費用を必要とするのである。

その後フランスのビッグ男爵、イタリアの富豪アガ・カーン等がチャレンジャーとして名乗りを上げた。そのような中で1973年よりオーストラリアの富豪アラン・ボンドがチャレンジャーとして名乗りを上げ、ついに1983年アメリカが132年間守りつづけてきたアメリカズカップを4対3という接戦で勝ち取ったのである。この時のオーストラリアはホーク首相を初め、全国民あげてのフィバーぶりであった。

では、アメリカがらくらくと132年間勝利を我がものとしてきたかというそうではない。この中でいくつかの名勝負があったのでそれらに少しふれてみよう。1920年の第14回大会のアメリカ艇〈レゾールト〉に対する〈シャムロックⅣ〉の闘いは3対2と大接戦であった。1934年の第16回大会ではアメリカ艇〈レインボー〉に対し〈エンデヴァー〉は4対2で敗退するが、スピードでは〈エンデヴァー〉の方がまさっていたのである。1962年の第19回大会の〈ウェザリー〉と〈グレイテル〉の闘いもスコアこそ4対1ではあるが各レースごとに近差の名勝負であった。しかしアメリカが最もおそれていた日が刻々と近づいてきたのである。

1983年、アラン・ボンド引いる〈オーストラリア〉チームがアメリカが誇る〈リパティエール〉を3対3のスコアの後、アメリカを打破ったのである。オーナーであるアラン・ボンドとスキッパーであるジョン・バートランドは一躍世界のスーパースターとなった。「アメリカズカップ」は現在バース市近郊のロイヤル・バース・ヨットクラブに保管されている。

## ディフェンダーとチャレンジャー

幾多の名勝負をくりひろげたカップ争奪を年度で追ってみると、別表のようになる。

表のごとく132年間に単にレースだけをとってもア

年度	ディフェンダー	ヨットクラブ	チャレンジャー	国名	大会場所	スコア
1851	アメリカ	ニューヨーク・ヨットクラブ	14隻のイギリス艇	イギリス	ワイト島	1:0
1870	マジック	"	カンブリア	"	ニューヨーク	1:0
1871	コロンビア	"	リウオニア	"	"	4:1
1876	マデレイネ	"	カウンテス オブ デフエリン	カナダ	"	2:1
1881	ミッシェフ	"	アトランタ	"	"	2:1
1885	ビュリイタン	"	ジュネエスタ	イギリス	"	2:0
1886	メイフラワー	"	ガラテイヤ	"	"	2:0
1887	ボランティア	"	テイストル	スコットランド	"	2:0
1893	ビギラント	"	バルキーリエII	イギリス	"	3:0
1895	デフエンダー	"	バルキーリエIII	"	"	3:0
1899	コロンビア	"	シヤムロックI	"	"	3:0
1901	コロンビア	"	" II	"	"	3:0
1903	レリアンス	"	" III	"	"	3:0
1920	レゾルコート	"	" IV	"	"	3:2
1930	エンタープライズ	"	" V	"	ニューボート	4:0
1934	レインボー	"	エンディヴアー	"	"	4:2
1937	レンジャー	"	エンディヴアーII	"	"	4:0
1958	コロンビア	"	セプター	"	"	4:0
1962	ウェザアリー	"	グレーテル	オーストラリア	"	4:1
1964	コンステレーション	"	ソベリアン	イギリス	"	4:0
1967	イントレピット	"	デイルパティー	オーストラリア	"	4:0
1970	イントレピット	"	グレーテルII	"	"	4:1
1974	カレイジャス	"	サザンクロス	"	"	4:0
1977	カレイジャス	"	オーストラリア	"	"	4:0
1980	フリーダム	"	オーストラリア	"	"	4:1
1983	オーストラリアII	ロイヤルパース・ヨットクラブ	リパディー	アメリカ	"	4:3

アメリカ以外の国が勝を得たレースは13レースしかない。その内4レースは1983年〈オーストラリアII〉のものである。来年の1月オーストラリア・パースで開かれるチャンピオンシップで勝利をつかむものはアメリカか、はたまたオーストラリアか今からヨットマンにとって興味のつきないことである。

アメリカズカップレースはどのようにして防衛艇と挑戦艇を決めるのか

A. まず防衛艇とはディフェンダー・カップに優勝した艇である。ディフェンダー・カップにはオーストラリア国内より4つのシンジケートが名のりをあげている。これら4隻の艇が次のスケジュールで1対1のデスマッチを戦う。

1. シリーズA 1986年10月18日から29日まで
2. シリーズB " 11月10日から23日まで
3. シリーズC " 12月6日から21日まで

このシリーズA, B, Cは各艇が総当りで戦う。

4. シリーズD 1987年1月10日から16日まで  
そしてシリーズA, B, C, Dでトップの成績を収めた2隻のヨットが防衛艇となるべく最後のシリーズを戦う。その日程は1987年1月18日から25日の間である。

B. 一方、チャレンジャーを決めるシリーズは次のごとく行なわれる。まず、

1. ラウンドロビン-1 1986年10月5日から20日まで

2. " -2 " 11月2日から19日まで
3. " -3 " 12月2日から19日まで

この3つのシリーズには6カ国14隻のボートが1対1で総当りのレースを行なう。そして次の段階へと進む。

#### 4. ルイビトン・カップ・セミファイナル

1986年12月28日から1987年1月7日まで、ここで成績上位4隻が残る。

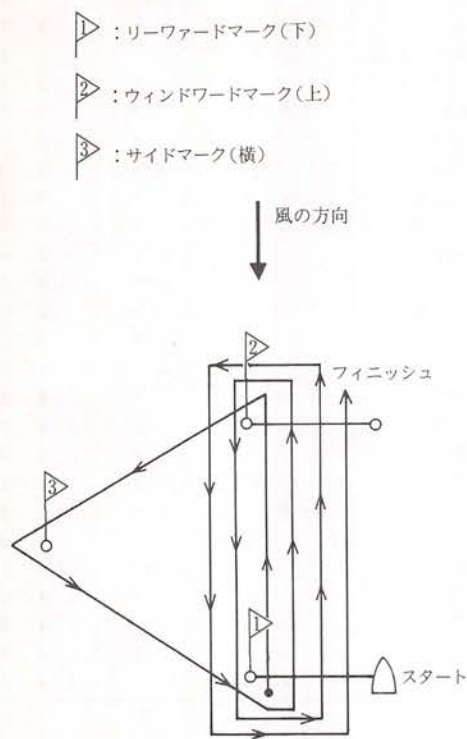
5. そして最後にルイビトン・カップ・ファイナルレース。1987年1月13日から23日まで、ここで最優秀成績を残した1隻がアメリカズカップをかけてディフェンダーと勝者を決めるべく本戦を行なう。

C. 本戦は1987年1月31日から2月15日までの期間行なわれ全レース数は7レースである。このうち先に4勝を上げた艇が勝者となる。今回各挑戦艇は、挑戦艇代表決定までわずか数カ月の間に100レースを超えるし烈な闘いを消化するのである。

#### アメリカズカップのレースコースについて

風上②, サイド③, 風下④に設けた3つのブイを回するその順序はスタート①をしたあと風上②マークを反時計で回り、サイド③マークを反時計で回り、再び①マークを回り②マーク→①マーク→②マーク→①マークそして②マークでフィニッシュする数字だけで書くと①(スタート)→②→③→①→②→①→②→①→②

(フィニッシュ) のコースでデスマッチをくりひろげる。



#### デッキワークシステムについて

12メートル級のクルーは全員で11人で編成されている。この11名が一条乱れぬ連携プレーを行なうのである。ではそのクルー達の配置と役目について図を見ながら説明してみたい。

##### 〈ヘルムスマン〉 1人

最も重要なポジションであり、どの艇でもこのパートを各国内よりすぐりのスーパースターが担っている。

役目は舵を握って自艇のマキシマムスピードを出すことである。タック、ジャイブの時には他のクルーとの連携が重要でこれだけ大きなセール面積を持つ艇ではヘルムスマンの少しの操船ミスがジェノアの破損、スピナーカーのスティへの巻付というトラブルをまねく。コース決定、競走相手艇とのデスマッチはナビゲーターと、タクティシャンとの、連携プレーとなるが最終決定はスキッパーがくだすことが多く、重要なポストである。それだけにヘルムスマンがスキッパーを兼任する場合が多い。一昨年ニューポート沖での決勝戦で2回連続チャンピオンに輝いたアメリカのスーパースター、デニス・コナーを〈オーストラリアⅡ〉のジョン・パートランドが打ち破り一躍、世界のスーパースターにのしあがったのである。

##### 〈ナビゲーター〉 1人

このポジションは経験が最も財産となるポジションである。まず練習または競技者にその日の天候、特に風の変化、風向、風速、潮流、波高、波長等の海況データを入手し、これらをコンピューターにより分析し、その日のセーリングプランを立てる。もちろんセーリング中の風の振れ、それらにともなう艇速のチェック、スタート時の風上、風下有利の判断、ラインまでの距離と時間、タックとジャイブのタイミングをスキッパーとタクティシャンに知らせる。力仕事としては艇上でランニングバックステイを担当する。総じて艇のコンピューターである。

##### 〈タクティシャン〉 1人

競技における戦略担当である。それだけにヨットのレース規則である IYRR 等のルールに精通している必要がある。近年各国の12メートル級のスピードボテンシャルに差のない現在、デスマッチレースであるがゆえにこの役目は非常に重い。それだけに各艇共スキッパー同等の力量をもつ第2ヘルムスマン的存在の人が多い。アメリカのスター、デニス・コナーは元テッド・ターナーのタクティシャンを務めたし、〈オーストラリアⅡ〉のジョン・パートランドも〈グレーテルⅡ〉のジム・パーディーのタクティシャンを務めていた。すなわちスキッパーの眼となり耳となる役目をもつ。艇上ではナビゲーターと共にランニングバックを担当する。

##### 〈メインセールトリマー〉 1人

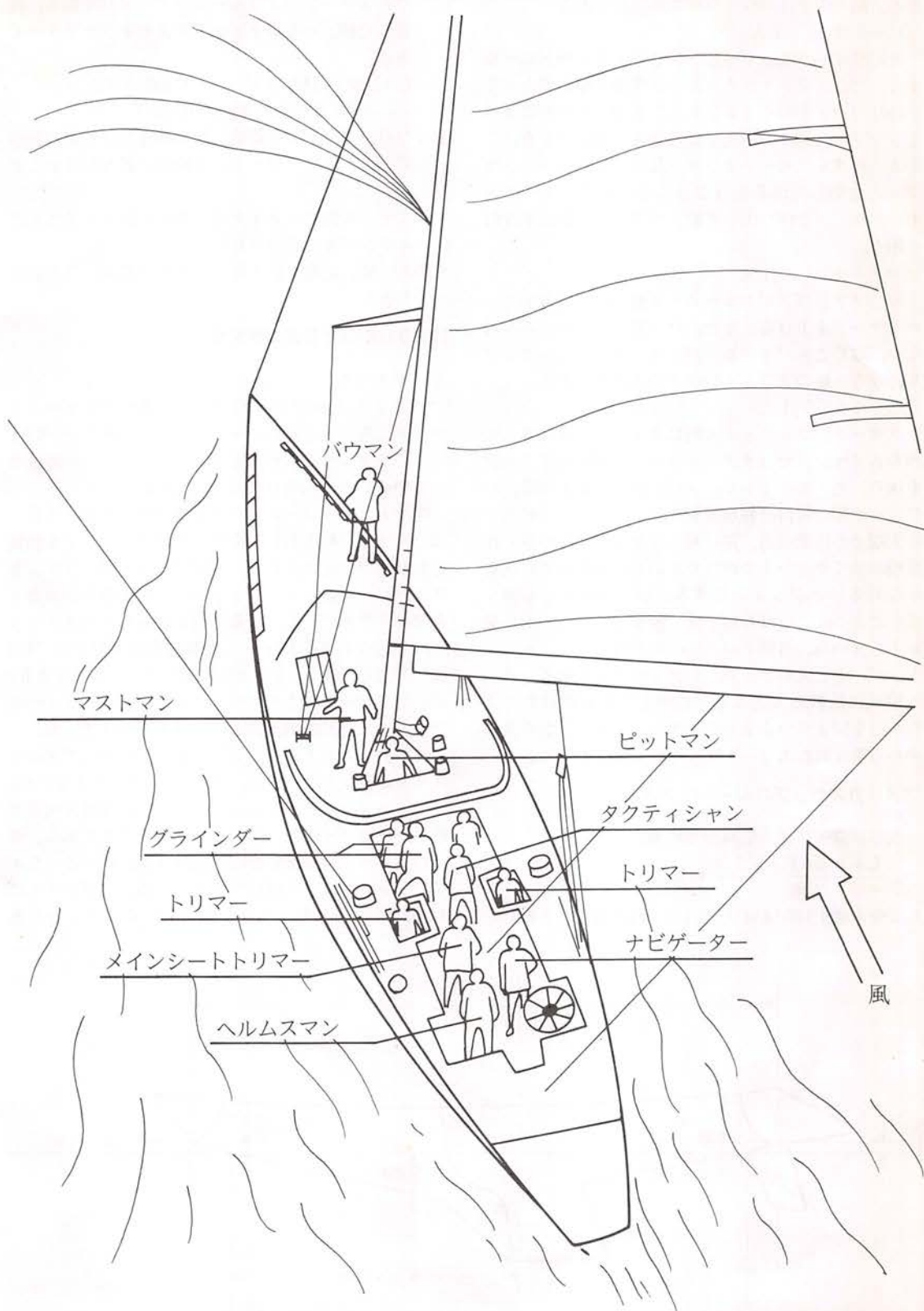
メインセールの全パワーを引き出すことが主目的である。その為にクリューアウトポール、カニンガム、パーマメントバックステイを調整して、最もパワーの出るメインセールのカーブを作り出す。12メーター級の中でメインセールが最も大きく最もトリムしにくい部分でありコントロールのすべては油圧作動で行なう。また、ヘルムスマンよりウェザーヘルムが強いといわれればすばやくメインセールのシートを出さなければならない。ヘルムスマンとのコンビネーションが最も要求されるポジションである。

##### 〈ヘッドセール・トリマー〉 2人

ジェノアのシートポジション(前後左右、強弱)の決定、セールチェンジのセッティング、スピナーカーのセット及びトリムを行なう。メインセールトリマーと同じように常にセール面上をフェアーに風が流れているかをチェックし、最大パワーを出すべく全神経を集中させる。タック、ジャイブの等のシートコントロールも彼ら2人がになる。

##### 〈グライNDER・マン〉 2人

左右または前後に設置された大型手動ウィンチ(コーヒングライNDER)をパワーのある人間2人がすばやく回す。シートの出し入れは前述のヘッドセール・トリマーより指示が出る。また、手のあいた時には風上側にて艇のヒールを起すべく人間バラストにも



なる。船の中ではパワーハウスの存在である。

#### 〈ビットマン〉 1人

全ハリヤード及びトッピングリフトをコントロールする。たとえばメインセールのラフ側が深い場合メインハリヤードを引く（テンションを増す）ことによってドラフト（深さ）が浅くなり強風に対応できる。このようにメインセールのトリマー及びヘッドセールのトリマーと連動した作業を行なうことにより、よりよいセールカーブを作り出して最大パワーを引き出す役目を担う。

#### 〈マストマン〉 1人

ジェノア及びスピナーカーを船内より持ち出し、ハリヤードを上げる。また、降下時には取り込みを行ない、取りこんだセールのパッキング、チューニングを行なう。船のまさしく縁の下の力持ちである。

#### 〈バウマン〉 1人

スタート、フィニッシュ時にライン等の確認をしてヘルムスマンまたはタクティシアンに手信号等で合図を送る。セールチェンジ、スピナーボールのセット、ハリヤード等の取付け整理整頓を行なう。バウ（船首）の先端での作業の為、常に海水をかぶることが多く作業場が狭くウェットで滑りやすい為、落水することもあり多いポジションである。以上の11人がレギュラーである。このほかに1隻で練習を行なっても成果が上らない為、各国では2隻の艇を使ってセール、マスト、ポートと人のチューニングを行なっている。チーム編成は総数35人となる。しかもこれら選ばれたクルーは全国よりつぶよりの優秀なヨットマン数百人の中から選ばれたエリートヨットマンなのである。

#### アメリカズカップのルールについて

次の計算式によって算出される。

$$\frac{L + 2d - F + \sqrt{S}}{2.37} = 12m$$

L：吃水線上180MM上で計測された長さ。これにバ

ウとスターンのポリウム（ガス）を測り、修正した値。ハルのスピードを表わすファクターである。

$$L = LBG + 1\frac{1}{2} \times (\text{ガス} - 1.2M) \text{FWD} + \frac{1}{3} (\text{ガス} - 2 \times V \cdot H) \text{AFT}$$

F：フリーボードの平均値。Lの前端及び前記計測点におけるフリーボードの平均値で最大1.21mとする。

$\sqrt{S}$ ：セール面積はメインセール+0.85フォア・トライアングルで算出される。

その他：幅、吃水、排水量、マストの高さ、等の規定がある。

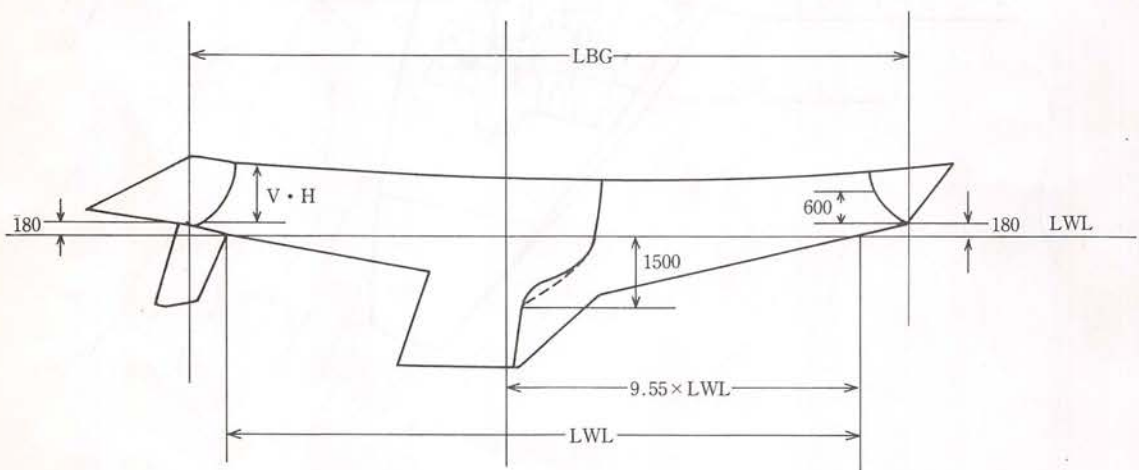
#### 1987年に向けて各国の状況は

##### 1. アメリカ

アメリカは130年間守りつづけたカップをオーストラリアに取られ今年はチャレンジャーである。今現在、6つのシンジケートがチャレンジカップに向かおうとしている。その内容は次のごとくである。

中でもニューヨークヨットクラブの〈アメリカⅡ〉は合計3隻の艇を有し、今アメリカでハイテクを結集した最も早いといわれている男ジョン・コーリアスをスキッパーに迎えチャレンジカップに照準を合せ着々と準備を進めている。さる2月7日からオーストラリア沖で行なわれた12メートル級世界選手権では“US 42”で出場、総合3位の成績を収めた。〈アメリカⅡ〉のシンジケートはキャデラック社やニューズウィーク誌などより約25億円のスポンサーを受けている。

この〈アメリカⅡ〉・シンジケートに対抗できるアメリカのシンジケートは〈スター&ストライプス85〉でチャレンジするデニス・コナーで、彼は現在世界で最も秀れたマッチレースのスペシャリストである。彼は12メートル級世界選手権には出場せず、黙々とハワイでのトレーニングを続けている。このシンジケートにも約21億円のスポンサーが付いているとのことであ



艇 名	艇 長	ク ラ ブ
1)アメリカII(US42)	ジョン・コーリアス	ニューヨーク・ヨットクラブ
2)新アメリカII(US44)	"	"
3)新アメリカII(US46)	"	"
4)スター&ストライプス(US)	デニス・コナー	サンディエゴ・ヨットクラブ
5)スター&ストライプス85(US)	"	"
6)イーグル(US)	ロッド・デイビス	ニューポート・ハーバー・ヨットクラブ
7)カレイジャスVI(US)	テッド・ターナー	イエール・コリンシア・ヨットクラブ
8)セント・フランシス(US)	トム・ブラッカー	セント・フランシス・ヨットクラブ
9)ハート・オブ・アメリカ(US)	パティ・メルジェス	シカゴ・ヨットクラブ

る。この他の6つのアメリカ国内のシンジケートは前2者に比べ資金面等で相当おくれをとっている。以上がアメリカの現状である。

## 2. イギリス

1983年に〈ビクトリー87〉でチャレンジしたイギリスは1985年に〈クルセーダー〉を進水させ、スキッパーにハロルド・カドモアを迎えてのチャレンジである。今年行なわれた12メートル世界選手権に出場し、その能力をいかに発揮して総合2位に食いこんだ。また新〈クルセーダー〉も現在建造中である。イギリスチームは新旧2隻の〈クルセーダー〉を持ってオーストラリア・パースにて今年4月よりトレーニング中である。

## 3. イタリア

1983年について2回目のチャレンジが決った。

1983年はアガ・カーン氏率いる〈アズーラ〉グループであった。1987年には2つのシンジケートがチャレンジカップに名のりを上げそうである。

〈アズーラ〉シンジケートは約13億を集めてのチャレンジである。また、イタリアはIYRU会長のペペ・クロッチ氏が会長を務めるイタリア・ヨットクラブからのエントリーである。1983年のアメリカズカップの挑戦では〈オーストラリアII〉、〈ビクトリー〉に次いで3位となった。

艇 名	艇 長	ク ラ ブ
1)アズーラ	セレンゾ・ボトロロティ	コスタエスメラルダ・ヨットクラブ
2)新アズーラ	"	"
3)新アズーラ	"	"
4)イタリア	アルド・ミダリアチ	イタリア・ヨットクラブ

## 4. カナダ

1983年に次いでのカナダからのエントリーは2つの

シンジケートが名乗りを上げている。

〈トルウ・ノース〉シンジケートは約15億円のスポンサーを集めてのチャレンジである。

艇 名	艇 長	ク ラ ブ
1)カナダI	マック・ラウングリ	セクレット・カブ・ヨットクラブ
2)カナダII	テリー・ネルソン	"
3)トルウ・ノース	ハンス・フォグ	ロイヤル・ノバスコシア・ヨット・スコードロン

## 5. ニュージーランド

1987年のアメリカズカップが初挑戦となるニュージーランドは同カップでは初めてのFRP同型艇2隻でのチャレンジとなった。

FRPでの建造はモールドを作る為、同型艇を安い費用で建造できるメリットがある。また、同国チームはさる2月7日フリーマントル沖で行なわれた世界選手権においてオーストラリアに次いで総合2位となった。これは初めてチャレンジするチームとしては驚異に等しい成績であり、ニュージーランド艇がこのことにより一躍世界中から注目を浴びることとなった。

艇 名	艇 長	ク ラ ブ
ニュージーランド(KZ 3)	グレン・ウッドラフ	ロイヤル ニュージーランド・ヨット・スコードロン
ニュージーランド(KZ 5)	グレス・ディクソン	"

## 6. フランス

フランスからは2隻のボートがエントリーする。

艇長のマーク・バジョとイヴ・バジョは兄弟である。今年の世選手権には兄のマーク・バジョが参加し、強風での走りには良いところを見せていた。ちなみに〈フレンチキス〉・シンジケートは約18億円のスポンサーを受けてのチャレンジである。

艇 名	艇 長	ク ラ ブ
フレンチ・キス	マーク・バジョ	ラロッシュェル
フランス	イヴ・バジョ	マルセイユ

## 7. オーストラリア

1851年以来初めてアメリカからアメリカズカップを奪取ったオーストラリアは今回はディフェンダーとして防衛側に立たされた。そして国内には4つのシンジケートがディフェンダーカップに名のりを上げている。

そのディフェンダーをここで紹介すると、

艇名	オーナー	艇長	シンジケート	ヨットクラブ
オーストラリア II	アラン・ボンド		アメリカズ・ディフェンス・リミテッド	ロイヤル・バース・ヨットクラブ
オーストラリア III	"	コリン・ビーシュル	"	"
オーストラリア IV	"		"	"
クッカパラ	ケビン・ペリー	イアン・マレイ	タスクフォース'87	ロイヤル・バース・ヨットクラブ
クッカパラ II	"	ジョン・スワープブリック	"	"
サウス・オーストラリア		(仮)ジェームス・ハーディ (仮)シド・フィッシャー	南オーストラリア・ディフェンス イースタン・ステーツ	

以上4シンジケートの中で、さる2月7日に行なわれた世界選手権で〈オーストラリアIII〉が優勝している。もう一方の旗頭である〈クッカパラ〉は約20億円の資金を用意してのチャレンジである。

さて我が日本はどうだろうか。過去において日本がこのビッグタイトルにチャレンジしたことはない。しかし、ついに(株)日本外洋帆走協会(NIPPON

OCEAN RACING CLUB)が1991年すなわち次の大会にチャレンジすることを決定したのである。一概にチャレンジといっても、4年に一度のこの大会出場を成功させるには巨額の資金を必要とする。たとえば一回チャレンジして勝てるものではない。かつて紅茶王リプトン卿が〈シャムロック〉でチャレンジしたように、ではあるがチャレンジを決めたからには勝つための仕組を作る必要がある。アメリカズカップの場合1隻でのトレーニングは効果がないとされている。よって2隻による練習となるわけであるが、1隻は日本で設計した新艇、もう一隻は1987年で使用、またはそれ以前に作られて、スピードのあるボートを購入する必要がある。また、トレーニング中サポートとして大型のモーターボートもいるし、できれば専用のボンドも必要である。クルーの人数は最低でも25〜6人は必要となる。しかも1年近く彼らを拘束しなければならない。あれやこれや、すべてを合計すると4年間の最初のキャンペーンで約20億円近い金が必要となる。まことに桁はずれのスケールの海洋スポーツなのである。

(記:歌田道教)

## '86 KENWOOD CUP

### ケンウッドカップ観戦ツアーのお知らせ

第4回目を迎えたハワイ国際外洋ヨットシリーズは、今年から日本の(株)ケンウッドがオフィシャルスポンサーになり装いも新たにケンウッドカップインターナショナルオーシャンレーシングシリーズとして8月2日(金)より8月17日(日)までのスケジュールで行われることになりました。

日本からも〈瑠璃光〉、〈ゼロ〉、〈スーパーサンパード〉等2チーム8艇が参加を予定してトレーニングに励んでいます。

レーススケジュールは下記の通りです。

8月2日(土) 第1回 オーシャントライアングル27M  
8月3日(日) 第2回 " "  
8月4日(月) 中距離 モロカイレース 150M  
8月7日(木) 第3回 オーシャントライアングル27M  
8月9日(土) 長距離 ハワイ州1周レース 775M  
8月17日(日) 表彰パーティー

これらのケンウッドカップのレースを目のあたりに観戦するツアーを企画しています。

第1回及び第2回のトライアングルレース2本と、モロカイレースのスタートと3つのレースをチャーターボートより観戦する5泊7日のツアーで、ハーバーにも近く、表彰パーティーも行われる高級ホテ

ル・ヒルトン ハワイアン ビレッジのレインボータワーに宿泊するコースとキチネットがついて滞在中自炊も出来るコンドミニウムに宿泊する2つのコースがあり、各コース25名ずつ募集しています。

日程:昭和61年8月1日(金)〜8月7日(木) 5泊7日

参加費用:レインボータワーコース 238,000円

コンドミニウムコース(2人部屋)

227,000円

〃 (3人部屋) 219,000円

〃 (4人部屋) 214,000円

(費用には、航空運賃、ホテル代、ホノルル市内観光、レース観戦費用、昼食3回、軽食1回が含まれています。)

なお、このケンウッドカップ観戦ツアーにはNORCも協賛し参加の会員の方にはケンウッドカップのオリジナルバック及びB全ポスターをさしあげることにしています。

このツアーの詳しいお問い合わせ、お申込みは旅行を主催する下記の旅行社まで。

(株)エスピーエンタープライズ

☎03-553-7813 担当 杉山

# 新設マリーナの計画ラッシュ

## ——関東水域 数年後に期待——

NORC泊地対策委員長 平野喜美夫

ここ数年間にわたり、当委員会では泊地の問題を種々検討してきた。多くの保管場所を確保し、また高値安定の保管料をどうすれば安くすることができるか、簡単に解決する問題ではない。

諸磯ヨットオーナーズクラブのように、漁業組合との直接交渉により、漁業権を遵守しながらその範囲内で係留する方式をとるか。保管料の安い公共マリーナなど新設マリーナがたくさん完成して、需要と供給のバランスがくずれるか。保管場所不足からくる売手市場を解消する以外にはないのではないか……。

関東水域でヨットを持ち、これから持とうとするわれわれにとって、関東水域以外の地方でのヨット保管の現況を見聞し、その保管場所や保管料金の格差にどうしようもないかなしみと、むなしさを覚えている。

しかし、最近になり東京湾、相模湾で各地に民間、公共によるマリーナ計画が浮上している。これらの計画が実現した暁には長年にわたるわれわれの悩みが解消されるものと思われる。

その期待の一つである千葉県浦安市の浦安マリーナの場合は、残念ながらご承知のように法廷闘争問題にまちこまれてしまった。

さる6月はじめ、大儀見副会長のお伴をして千葉県土木部を訪問し石原会長名で千葉県知事あてに次のような趣旨の御願書を提出した。

——浦安マリーナの恒久化と拡張計画、さらに極力低廉な保管料金となるように考慮されたい。——問題の早期解決を願っている。

また、横浜市では横浜・金沢木材港の跡地を一部マリーナにする計画がある。さる3月14日付石原会長名で横浜市長あてに金沢木材港の一部を小型船舶の係留場所として再利用していただきたいとの御願書を提出した。

数年後にすばらしいマリーナが完成するものと期待している。

さらに59年8月にさかのぼるが、石原会長名で住友重機械工業(株)社長あてに、書面で同社の川間造船跡地に小型船舶の置き場所を設置していただきたい旨の御願書を提出した。同社ではマリーナ計画を着々と進めており、実現が近いときいている。

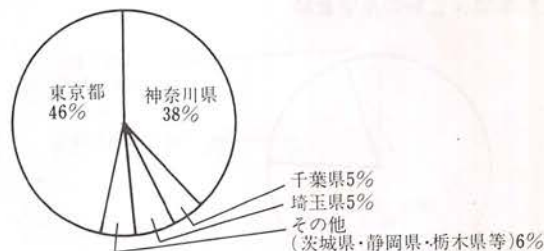
その他、東京都、横須賀、熱海、伊東、等々にもマ

リーナ計画がある。全国的には毎年各地に公共マリーナが完成しており、リクリエーション港湾建設の国の方針が着々と進められている。例えば、計画中のものとして宮城県塩釜港内、茨城県大洗港西地区、大阪府堺泉北、泉佐野マリーナ計画、滋賀県彦根港、室蘭市室蘭港、福島県小名浜港、高松市等々がある。

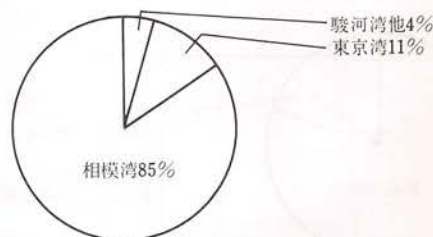
さきに関東支部の会員各位に協力をお願いした「ヨットの利用現況とマリーナに対する潜在需要のアンケート調査」の結果を大へんおそくなりましたが次に紹介します。

### ヨットの利用現況とマリーナに対する潜在需要の状況を知るためのアンケート調査結果

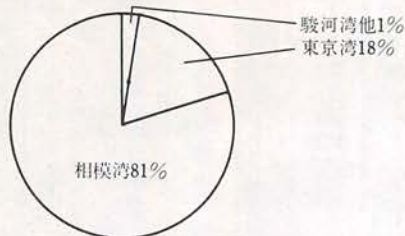
1. アンケート回答数253通
2. 配布対象：NORC 関東支部の特別会員（オーナー）を中心にした
3. 回答者居住地：



### 4. 現在の係留場所

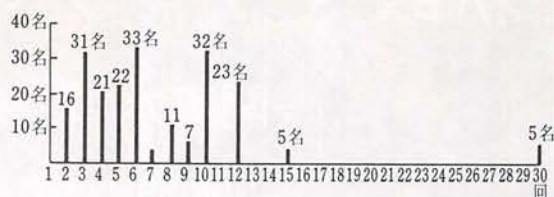


## 5. 将来の係留希望場所



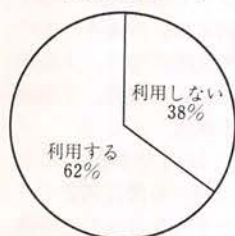
## 9. 現在のマリーナ利用回数

① 3～5月(延1,602回)

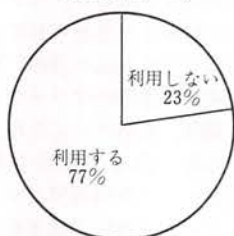


## 6. マリーナを新設した場合 利用しますか

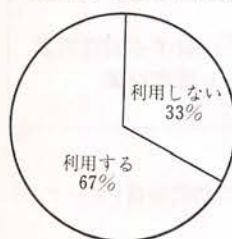
所要時間が短い時



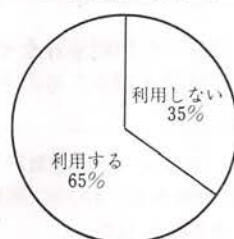
使用料が安い時



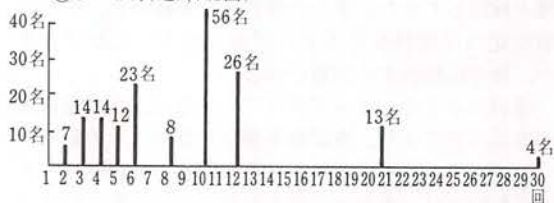
施設がより整っている時



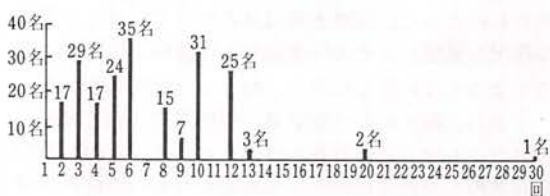
サービスがより良い時



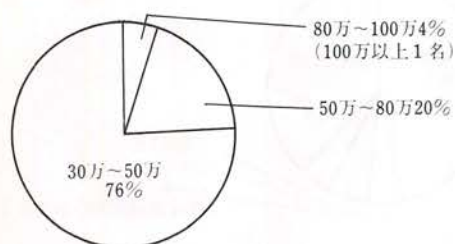
② 6～8月(延2,721回)



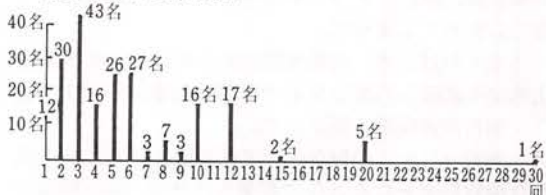
③ 9～11月(延1,644回)



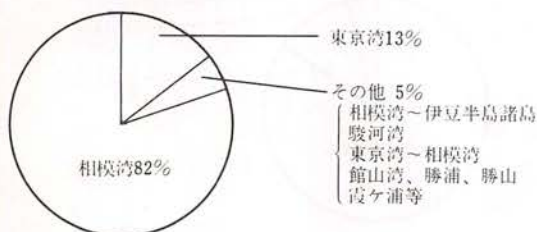
## 7. 年間保管料の希望金額



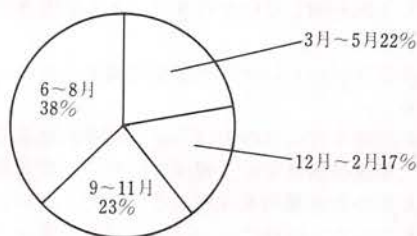
④ 12～2月(延1,199回)

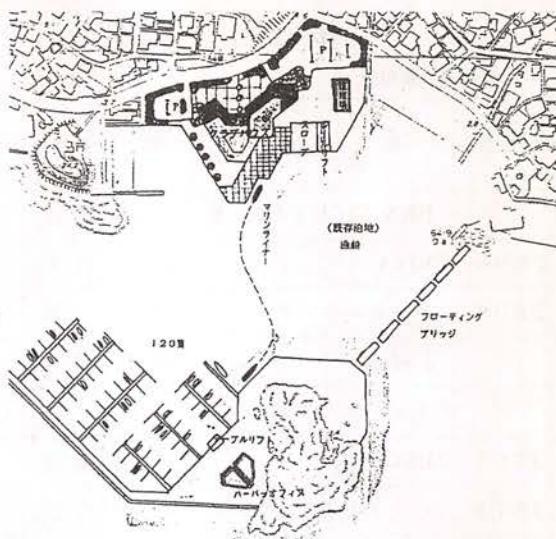
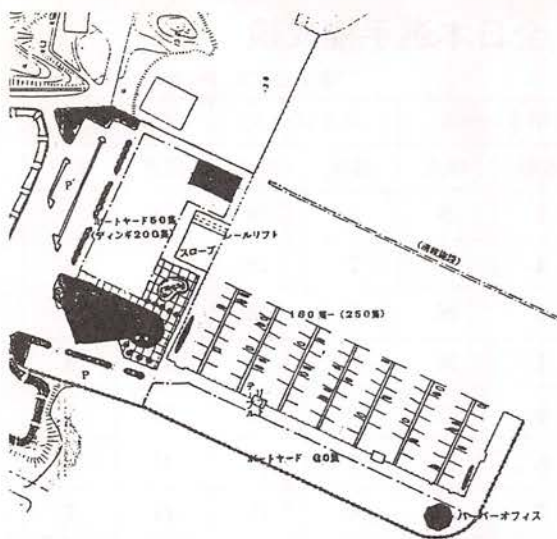


## 8. セーリング・エリア



マリーナの年間を通した月別の利用率





## 10. 新設マリーナに対する要望

- ① 企業である以上、営利は当然である。しかし単に車の駐車場でのようなものであってはいけない。マリーナの関係者が船を愛し、利用する者に対しての心づかいがあってほしい。
- ② 短期間の保管等をふくめ、外来艇の受入れ施設も十分に考慮してほしい。
- ③ 保管料が安く、駐車場は1艇に2台、シャワー、レストランがあり、常に施設が清掃されていて、係留スペースが十分にあること。
- ④ アフターヨットを存分楽しめるスポットをつくること。プール、かべ打ちテニス、ビリヤード、サロン、サウナ、スタンドバーなど。
- ⑤ 漁船とヨットが共存の公営泊地をつくること。商業区域はヨットの大衆化、発展を著しく阻害する。
- ⑥ 料金が多少高くともふんいきのよいマリーナを希望する。
- ⑦ マリーナがほしいのではない。安全に係留できる港がほしい。
- ⑧ 全国規模または世界レベルのレースを受け入れるベースが必要。
- ⑨ どんな天候でも安全に入港できるハーバー。
- ⑩ 国家レベルの企画をのぞむ。
- ⑪ 電気水道設備が必要だ。
- ⑫ 夏でも駅から歩いていけるところにほしい。
- ⑬ 土曜日の夜もふくめ、夜間でもハーバー施設を利用できるようにしてほしい。
- ⑭ 保管料金は年間1フィートあたり1万円が好ましい。

## 11. その他のご意見

- ① 現在の湘南港江ノ島は管理運営に強いしめつけを非常に感じ、多くの不満をもっている。

日本のマリンスポーツにより一層の理解をも

ち、マリンスポーツの最先端をいくことができる立場にあることを自覚すること。

- ② 東京湾にハーバーができれば、デーセラーは大喜びすると思う。
- ③ 金沢八景など新設マリーナの情報を知りたい。
- ④ 法外な保管料金に疑問をもつ。
- ⑤ ゲストオフリミットのなげかわしい現状をうれいる。
- ⑥ 各漁協にもっとレースを認識、理解して協力をお願いできるように広報に力を入れること。
- ⑦ 最近、港湾設備のうち、貯木場があまっているようです。マリーナに利用すればと思います。
- ⑧ 公営のマリーナをもっと増すこと。とくに関東に必要。マリーナができなければ日本のプレジャーボートはふえない。
- ⑨ とにかく大衆的な料金（合理性のある）で新規にベースがふえればヨット業界の未来も明るくなると思う。
- ⑩ オーシャンヨットはゴルフと違い、朝のりにきて夕方帰るというのではない。泊ることが大切なのではないか。

※ 新設マリーナに対して、必ずしも『近くて、安くて、設備もよくて、サービスがよい』ところを利用するとは限らない。

その理由は：25年間もあり、今さら他に変わりたい。共同オーナーであり、簡単に決められない。住んでいるところに近い方がよいから。東京湾の奥部は帆走環境がよくないから。相模湾中心セーリングエリアが好きだから。現在より安くなるとは思えない。

## 第6回 J-24クラス 全日本選手権成績

レース委員長 瀬川洗城

'86.4.27~29 於：サントビアマリーナ

SAIL No.	艇 名	艇 長 名	第3レース		第5レース		総 合 成 績	
			着順	得点	着順	得点	得点	順位
	BRA-VICE PAK J/E	二 宮 隆 雄	2	29	1	30	59	1
2690	VIVA	山 田 良 久	4	27	2	29	56	2
3806	ホンキートンク	林 基	5	26	5	26	52	3
	J of J	庄 崎 義 雄	1	30	10	21	51	4
	チャイナタウン	石 田 博	9	22	3	28	50	5
3795	BRONKO	小 崎 篤 志	6	25	7	24	49	6
3571	ハンプティダンブティ	田 中 良 三	7	24	6	25	49	7
2877	エクゾセルージュ	中 野 誠	12	19	4	27	46	8
2871	オリーブII	萩 原 重 一	10	21	8	23	44	9
2681	CLARA	山 内 広 光	8	23	14	17	40	10
3825	ENTERPRISE	辻村 安太郎	3	28	26	5	33	11
4052	ORCA	井 田 光 昭	19	12	11	20	32	12
3797	エスメラルダ	植 松 真	13	18	18	13	31	13
2870	ドナルドダック	横 山 秀 樹	23	8	9	22	30	14
2890	アリゲータ	佐 野 文 雄	16	15	17	14	29	15
3569	ヘルタースケルター	樋 口 敏 康	15	16	20	11	27	16
3809	Exocet-Bee	山 田 豊 和	20	4	15	16	27	17
2689	アドニス	井 坂 哲	14	17	22	9	26	18
2866	ピンクキッス	土屋 美記子	21	10	19	12	22	19
	プレイボーヤ	長野つねしげ	24	7	16	15	22	20
3814	BOOMERANG	加 藤 強	28	3	13	18	21	21
3555	リフレクション	菊 地 誠	11	20	DNC	0	20	22
2676	酔 酔-III	長 命 修	30	1	12	19	20	23
3581	バトラー	小 河 原 隆	22	9	25	6	15	24
2863	ハングオーバー	松 本 孝 臣	26	5	21	10	15	25
2876	小 梅	才 田 忠 利	17	14	DSQ	0	14	26
2872	SEAGULL	松 宮 一 郎	18	13	DNF	1	14	27
	リトル・ママ	高野 由美子	27	4	23	8	12	28
3588	ボールスター	木 内 栄 造	29	2	24	7	9	29
2473	レディファースト	林 佳 代 子	25	6	DNF	1	7	30

# ミキモト ジャパンカップ オフショア シリーズ1986

ニュース(1)

ジャパン カップ 実行委員会

今年も NORC 最大のイベントである「ミキモト ジャパン カップ」のシーズンが近づきました。このシリーズに照準を合せて、各艇、鋭意準備のこととします。ジャパンカップ実行委員会では今月から毎月オフショアで、最新の情報をお届けしていきます。

## 1. 日程

- 8月12日(火) 事前エントリー締切り
- 9月5日(金) 最終登録締切り
- 10月2日(木) インспекション
- 10月3日(金) 第1レース トライアングル
- 10月3日(金) 歓迎パーティ クラブハウス
- 10月4日(土) 第2レース トライアングル
- 10月4日(日) 第3レース・ショート オフショア  
(オープンレース・予定)
- 10月7日(火) 予備日
- 10月7日(火) 懇親パーティ 熱海 金城館
- 10月8日(水) 第4レース トライアングル
- 10月9日(木) 第5レース ロング オフショア (オープンレース・予定)
- 10月12日(日) 表彰式

## 2. 参加資格

IOR MK III もしくは IOR MK III A の有効なレーティングを所有し、ORC 特別規定1986カテゴリーIII以上、NORC 特別規定、NORC 設備規定カテゴリーB以上の安全検査に合格しているレーティングが21.0 ft 以上70 ft 以下の艇。

## 3. クラス分類

参加艇のレーティングに応じて次のように分けます。

クラスⅠ	IOR レーティング33.0—70.0 ft
クラスⅡ	IOR レーティング30.0—32.9 ft
クラスⅢ	IOR レーティング26.0—29.9 ft
クラスⅣ	IOR レーティング23.0—25.9 ft
クラスⅤ	IOR レーティング21.0—22.9 ft

但し、参加申込締切後1クラス5艇以下のクラスが生じたときは、2つ以上のクラスを統合することがあります。

## 4. 競技の種類

1. 艇対抗競技 各レースの総合順位及び全レースの得点合計による総合順位。

2. 各クラス別艇対抗競技 全レースの得点合計による総合順位。

3. チーム対抗競技 1チーム3艇による全レース得点合計による総合順位。

## 5. チームの構成

チーム対抗競技に参加するチームは NORC の各支部内の3艇によって構成されなければなりません。

1支部からの参加チーム数は問いませんが各チーム共、当該支部長の承認をうけたチームであること。チームの編成になんらかの問題がある場合は事前にレース委員会の承認を受けてください。

1支部単独でチームが編成出来ない場合に限り、複数支部混成チームは認められます。

チーム対抗競技に参加申込みしている艇の乗員は、少なくとも半数が、その艇が所属する支部の所属会員でなければなりません。ただしレース委員会が認めた場合はこの限りではありません。

どのチームも予備艇を用意することができます。予備艇はチーム編成表に含めて申告してください。

なお、予備艇は本シリーズにエントリーしていて、チームレースに参加していない艇とします。艇の交替については、正式チーム艇の1艇が完全に帆走不可能となった場合のみ、認められます。

## 6. 参加費用

クラスⅠ	70,000円 (パーティ代9名分含む)
クラスⅡ	60,000円 (パーティ代8名分含む)
クラスⅢ	50,000円 (パーティ代7名分含む)
クラスⅣ	40,000円 (パーティ代6名分含む)
クラスⅤ	30,000円 (パーティ代5名分含む)

## 7. 事前登録

プログラムにのせる写真と自艇の紹介などを400字程度にまとめてお送りください。なお、事前登録以後の申込みの場合、写真がのらないことがあります。

締切り 8月12日(火)

申込金 20,000円

(最終登録時に参加費用より差引きます。)

また、事前登録をした艇には実施要領ほか最終登録に必要な書類をお送りします。

## 8. 最終登録締切

9月5日(金) 17:00

## 提出書類

- \* 所定の登録申込書
- \* レーティング証書のコピー
- \* 計測時の備品目録(インベントリーリスト)のコピー
- \* 安全検査合格証のコピー
- \* 乗員登録リスト及び1986年度の会員証のコピー
- \* チーム編成表

## 9. 申込先

NORC 事務局 東京都港区虎ノ門1-15-16  
船舶振興ビル4F  
☎03(504)1911

## 10. 昨年と異なる点

## 1) セールに対するインスペクション

今年は日程上の都合でインスペクションのスケジュールが10月2日(木)、一日となっています。効率よく進めるために熱海では原則としてインベントリーと安全に限定し、セールは各セールメーカーのロフトで受けて下さい。

9月1日以降を有効とします。

詳細は NORC 事務局・各セールメーカーにお問合わせください。

- 2) 第3レース(ショートオフショアコース)及び第5レース(ロングオフショアコース)はオープンレースとしシリーズ参加以外のヨットも参加できるようにする予定です。ぜひご意見をお寄せください。

来月号に続く

## ウェルカムパーティ&表彰式及び 安全フェスティバル準備経過報告

実行委員長 清田 博

第27回鳥羽パールレースに伴ない、ウェルカムパーティ&表彰式及び安全フェスティバルを開催いたします。本年は、海の旬間(7/20~7/31)協賛のためミス「海の女王」(ミス・レイラニ)を招き、パーティを盛り上げるつもりです。更に安全フェスティバルも同時に開催し安全への関心を高めたいと思います。皆様方に楽しんで頂ける様、海事思想普及委員会、安全委員会、諸磯フリート、油壺フリート等関東支部で着々準備中です。ご期待下さい。

## 記

## I. 前夜祭(アフター・ミーティング)

7月26日(土)正午より於諸磯オーナーズクラブハウス7月26日(土)1:00頃より諸磯オーナーズクラブハウスを提供致します。陸上からの交替、レースの模様の問い合わせ等ボランティアが早くから居りますので、ご利用下さい。今年も又、お酒、ソフトドリンク・バーベキュー・お寿司等(〈オイドン〉藤田氏協力)飲み物、食べ物を用意します。フィニッシュ後のホッとした一時、シャワーを浴びて、レースを振り返っての自慢話、反省等、飲みながら、食べながらお互いに話をしませんか?この日はall nightで諸磯・油壺の有志が歓迎します。関東の各フリートの方も是非どうぞ。また、臨時定係泊も(きぬぐも)鈴木氏を委員長に、神奈川県及び三崎マリンの全面協力を得て油壺湾で行う予定です。(但し事前申し込みの艇のみです)

## II. ウェルカムパーティ&amp;表彰式及び安全フェスティバル

トラバーユ、就職情報、油壺マリーナホテル、レ

ナウン、ヤマハ発動機、キリンビール、コンチネンタル航空等のご好意を得て今年もウェルカムパーティを開くことになりました。

7月27日(日)11:30~15:00於諸磯大駐車場及び諸磯湾

- 11:30 パーティ開場・安全備品等の出展企業による展示(15:00まで)
- } 表彰式、ゲーム等
- 13:30 安全フェスティバル開始
- } イ. 救急法の指導(三浦市消防署による)於パーティ会場
- 14:00 ロ. 安全、救難用品の実演
- } 於諸磯湾
- 14:30 ハ. ヘリコプターからの吊上げ訓練
- } (特殊救難隊による)於諸磯湾
- 14:45

今年は、運輸省・海の旬間(7/20~7/31)協賛のためウェルカムパーティと安全フェスティバルを同時に開催します。パーティ会場にて、外洋帆走用の安全備品、無線機器、航海計器等の展示をし、相談コーナーを設けます。14:00よりは諸磯湾で安全備品の実演、14:30より羽田基地からヘリコプターが来て特殊救難隊による吊り上げ訓練が諸磯湾・油壺湾口で有ります。ウェルカムパーティ参加者全員には無料でTシャツを配ります(デザインは決定しました)。

この5月に運輸省等で選出されたミス海の女王(ミスレイラニ)の出演も決っています。

その他各支部対抗3本綱引きなどのゲームも考え

表彰式以外にも楽しい催しを計画しています。もちろん飲み物、食べ物、夏ならではの食べ物を用意するつもりです。飲食物は無料です。

また、油壺マリーナホテルのプールも¥500の使用料で解放してもらいます。

以上、色々書き出しましたが、今年は、IOR 艇の他、クルーザーレーティング艇の参加も有り、去年に増して参加人数が多くなるのではないかとするとウェルカムパーティーへ参加される方も多くなるぞ……。

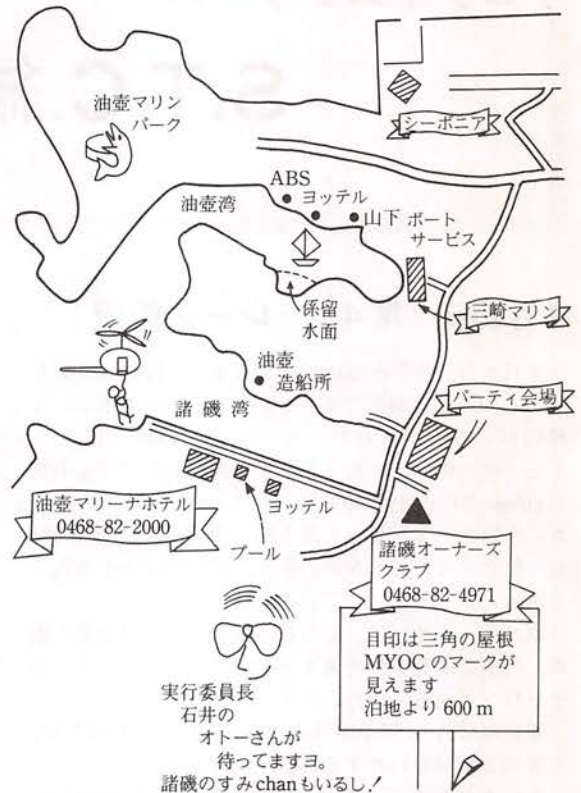
ウェルカムパーティー実行委員会のメンバーは、張り切っています。フィニッシュ後は是非諸磯オーナーズクラブハウスへ!!

## 鳥羽パールレースについて 安全委員会

鳥羽パールレースにクルーザーレーティングにて出場希望の艇は次のことを行なって下さい。

- 1) エントリー 10,000円。
- 2) 沿海+パラシュートフレアー+ハーネス+ライフラフトの安全検査(特別安全規則) 1,000円(交通費を渡す)。
- 3) クルーザーレーティングの計測。

そして安全検査のチェックリスト(安全検査員のサイン必要)を鳥羽の朝雲館での出艇申告の時に提出して下さい。



## NORCクルーザーレーティング講習会報告

内海支部計測委員長 飯塚功二

内海支部は下記内容にて、関西ヨットクラブ、西宮マリーナ(株)の協力のもとに講習会を開催致しました。急な開催日程にもかかわらず、各フリート、各業者の協力のもとに参加されました受講者に感謝しております。

今後、本レーティングルールを利用するのレース企画及びハンデキャップシステム等において、受講者各位には積極的に運営参加協力をお願い致します。

### 記

日時 61年5月24日(土) 16:30~20:00  
場所 西宮マリーナ、関西ヨットクラブ会議室  
内容 NORC クルーザーレーティングについて

- ①背景及び目的
- ②基本ルール
- ③実測方法
- ④実技指導

- ⑤計算方法
- ⑥問題点質疑
- ⑦運用について

講師 渡辺修治技術委員長

出席者

田村治久 (西内海支部)	叶 英敏 (ブルーラグーン)
岡田憲佳 (西宮F)	内山良一 (内山造船)
西井謙治 (シ)	柳田浩一 (株西宮マリーナ)
岡田真一 (須磨F)	原田真治 (アシアポート)
長尾久吉 (シ)	吉田 豊 (135°E)
柏元孝博 (泉南F)	井上三津将 (135°E)
日高久夫 (シ)	永信修治 (一点鐘)
松下 等 (淡輪F)	尾崎益生 (シーマンライク)
古賀正行 (シ)	
湯浅憲二 (シ)	飯塚功二
武田正之 (シ)	

## サムタイムシリーズ

## S.T.C.結果報告

## 4月20日 第4回 レース概況

4月20日、今年最高の42艇が集まって行われた第4回 S. T. C. は、曇天ながら4.5 m/sec 平均の風が吹き熱戦がくり広げられた。注目の〈海太郎〉(Mrs. メデューサ)のマッチレースは、参加全艇が見守る中を5 m/sec 30°の絶好のコンディションでスタートした。全日本ミドルボート選手権での成績は、〈海太郎〉が上位であったにもかかわらず、前評判は全くの五分であった。

〈メデューサ〉は、この日の為に2日間の合宿を組み、万全の体勢を整えスタート前から気合いの入ったセーリングをしていた。

運営陣は、10:30予定通りマークを打って待ったが、主賓の2艇が現われずまたまた延期信号。

先に来たのは〈メデューサ〉でのんびり現われたのが〈海太郎〉、武蔵と小次郎の結果は別として、ヨットは先に来た方がレーススタート前のチェックを考えると悪い事は何も無い。

おっとり現われた〈海太郎〉に対し、スタート前から積極的に攻撃をしかける〈メデューサ〉、この気迫に押されてか、あるいはスタート前のマニューバーまで予測しなかったのか〈海太郎〉は防戦一方にまわっていた。

スタート前から〈海太郎〉をしっかり押さえリードして気持ちのゆとりができたのか、ミスの少ない〈メデューサ〉に対し、〈海太郎〉は悪い所ばかりが出てしまった様である。

1分56秒の差をつけて、結局〈メデューサ〉の勝ちとなったが、〈海太郎〉の最大の敗因は、ジブシートリッドが悪かったという点につきると思う。ジブのリッチのトップがつまりすぎて、上りは悪くなる、オーバーヒールはするの悪循環、クローズホールドでのスピードで〈メデューサ〉に軍配が上ったと言って良い。

いずれにしてもギャラリを沸かせてくれた2艇の勇氣ときっぷの良さに拍手を送りたい。

これからも、どしどしマッチレースの申し込みをして下さい。

S. T. C. 本番レースは、ハードワンミニッツルールの適用で、3艇のD. S. Q.を出したが、その他は全艇ほぼ一線のきれいなスタートを切り、1位〈瑠璃光〉

2位に〈ゼロII〉3位には、マッチレースで気を良くした〈メデューサ〉が大健闘でフィニッシュした。

3回目の上りで、風向20°の変化に対応して、マークを打ち変えたが、トップの10艇ほどまでは、振れもどった風で1本上りとなってしまった。その後は、左右ちょうど良いコースとなり、どちらかと言うと、後続艇不利の最終レグとなったが、それをさし引いても、軽風ながら、絶好のレースコンディションであった。

## 5月3日 第5回 レース概況

5月3日、小雨のバラつくあいにくの連休、連休は各艇スケジュール調整がうまくいかないのか、あるいはレースが多すぎるのか、参加は32艇と前回は下回った。しかし、雨の中を良く集まった方かもしれない。

ミドルボートの東日本選手のかかった今回のS. T. C. は2レースを消化する予定であったが、10:00(風向150°2 m/sec)～10:30(無風)～11:00(風向345°3 m/sec)～11:10(305°)～12:05(270°)～13:00(235°)と左回りに振れて安定せず、ゼネラルリコールもあって、最終的にスタートしたのは12:35、結局、1レースしかできなかった。

11:05に345°の風で1度スタートさせたが、スタート3分前から一気に40°も左に振れた為、上マークは、一本上り、あるいはクローズリーチというつまらないレース状態になった。

ここで、中止。再レースをすべくN/X旗を上げたが、このN/Xをあげる帆走指示書上の条項が無くてこまった。考えたあげく、むりやり上マークを上げて、レース中マークを通告なく移動したという運営の不手際を理由にした。

次回からは、帆走指示書に中止・再レースに関する条文を明記します。

ゼネラルリコールを2回くり返した為、S. T. C. ハードワンミニッツルール(ゼネラルリコール時に、特に目立った艇、リコールのリーダー的存在となった艇に、罰金¥3,000を科す)を適用した。

これで〈リップル〉、〈がめら〉、〈DISCODORI〉、〈TRACER〉、〈ゼーアドラー〉の5艇が支払いを言いわたされた。

(25頁へ続く)

## S.T.C.成績表 '86.4.20(第4回)

第1下マーク廻航順位

第2上マーク廻航順位

第2下マーク廻航順位

フィニッシュ順位

艇名	修正 順位	修正時間	廻航 順位
瑞 瑠 光	1	16'59"	1
ゼロII	2	17'19"	2
Mrs.メデューサ	3	17'46"	6
シーライオン	4	17'51"	4
リップル	5	17'51"	7
タハチIII	6	17'59"	9
コンテッサ	7	18'03"	3
DISCODORI	8	18'25"	8
サマーノーズ	9	18'35"	10
アビアンローズ	10	18'44"	5
DOLLY	11	18'51"	12
AFRODITA	12	19'02"	14
クリムゾン	13	19'14"	11
シルフィード	14	19'23"	17
海太朗	15	19'39"	13
ポインシアナII	16	19'42"	19
サモアV	17	20'01"	20
パベミリオ	18	20'17"	22
清 海 波	19	20'25"	18
サエラ	20	20'29"	23
ベーンシク	21	20'43"	21
くろしおIII	22	21'15"	26
メルルーサ	23	22'30"	29
メルルーサ	24	23'23"	33
ビックディール	25		25
松田人II	27		27
トワイライト	28		30
ポイジャー	30		33
おいどん	RET		
モアジョイサンク	RET		
マチンロウ	RET		
かげろう	DSQ		
UFO	DNS		
ISIS	DNS		
J/24クラス			
スーパークイズ	1		15
NOWAKI	2		16
エスカゴIII	3		24
ハセドン	4		31
仰 秀	5		32
エスメラルダ	DSQ		
PEPRISE	DSQ		

修正 順位	修正時間	廻航 順位
1	33'37"	1
2	33'46"	6
3	33'52"	2
4	34'35"	4
5	34'38"	3
6	34'43"	9
7	34'48"	10
8	34'56"	7
9	34'59"	8
10	35'25"	5
11	35'43"	13
12	35'59"	17
13	36'03"	15
14	36'27"	20
15	36'41"	19
16	36'44"	11
17	37'10"	21
18	37'17"	22
19	37'36"	18
20	37'47"	24
21	37'47"	24
22	38'43"	23
23	41'58"	30
24	42'01"	29
25		25
26		26
31		31
33		33
RET		
RET		
RET		
DSQ		
DNS		
DNS		
1		14
2		16
3		27
4		28
5		32
DSQ		

修正 順位	修正時間	廻航 順位
1	1'02'34"	1
2	1'03'50"	2
3	1'05'46"	6
4	1'06'21"	4
5	1'06'41"	3
6	1'07'33"	5
7	1'08'11"	7
8	1'08'30"	8
9	1'08'34"	11
10	1'08'35"	10
11	1'10'09"	9
12	1'10'25"	13
13	1'11'06"	14
14	1'11'42"	17
15	1'11'51"	15
16	1'12'55"	12
17	1'12'58"	22
18	1'13'22"	21
19	1'13'27"	20
20	1'14'18"	22
21	1'15'41"	16
22	1'17'42"	24
23	1'23'43"	30
24	1'28'17"	31
26		26
28		28
29		29
32		32
RET		
RET		
RET		
DSQ		
DNS		
DNS		
1		18
2		19
3		25
4		27
5		33
DSQ		

艇名	総合 順位	修正時間	フィニッシュ順位	者順
瑞 瑠 光	1	1'17'47"	1'31'48"	1
ゼロII	2	1'18'43"	1'35'51"	2
Mrs.メデューサ	3	1'20'08"	1'46'17"	6
コンテッサ	4	1'21'38"	1'37'49"	3
シーライオン	5	1'22'41"	1'39'54"	4
アビアンローズ	6	1'22'20"	1'41'43"	5
DISCODORI	7	1'22'43"	1'49'26"	7
サマーノーズ	8	1'22'54"	1'49'48"	8
リップル	9	1'24'15"	1'54'24"	10
DOLLY	10	1'25'53"	1'57'58"	11
海太朗	11	1'26'11"	1'54'09"	9
AFRODITA	12	1'27'57"	2'00'59"	15
シルフィード	14	1'28'35"	2'01'39"	14
タハチIII	14	1'28'35"	2'01'39"	14
パベミリオ	15	1'28'47"	2'01'05"	16
がめら	16	1'29'03"	2'01'47"	17
ベーンシク	17	1'29'32"	2'03'32"	22
サモアV	18	1'29'41"	2'02'37"	19
ポインシアナII	19	1'29'59"	2'04'59"	23
清 海 波	20	1'30'29"	1'59'13"	12
クリムゾン	21	1'32'20"	1'59'22"	13
サエラ	22	1'35'29"	2'06'46"	24
メルルーサ	23	1'41'04"	2'18'43"	30
くろしおIII	24	1'46'18"	2'21'47"	31
ビックディール			2'10'36"	27
トワイライト			2'16'43"	28
松田人II			2'16'47"	29
ポイジャー			2'24'34"	32
おいどん	RET			
モアジョイサンク	RET			
マチンロウ	RET			
かげろう	DSQ			
UFO	DNS			
ISIS	DNS			
J/24クラス				
NOWAKI	1		2'03'00"	20
スーパークイズ	2		2'03'31"	21
ハセドン	3		2'09'03"	25
エスカゴIII	4		2'10'45"	26
仰 秀	5		2'25'36"	33
エスメラルダ	DSQ			
PEPRISE	DSQ			

## 参加艇及び総合結果一覧表(第4回)

86.4.20

総合 順位	艇 名	オーナー名	スキッ パー名	艇 種	セー ル No	レー ティ ング	ホーム ポート	総合 順位	艇 名	オーナー名	スキッ パー名	艇 種	セー ル No	レー ティ ング	ホーム ポート
1	瑠璃光	菅原 留意	萬野小啓昌秀	KAN-45	3280	34.5	高知 屋	22	サエラ	沼田 尚文	井上一典	バン ド7 30	3561	24.2	選手マリーナ
2	ゼロII	津村 重幸		Fte-41	3410	31.5	三崎マリン	23	メルルーサ	杉田 泰一		なかい25	2466	22.1	諸 磯
3	Mrs.メヂューサ	木原 和喜	中野 誠	高井-33	3044	24.4	深 浦	24	くろしおIII	斉藤 倫彦	斉藤 倫彦	なかい33	2690	24.2	小 網 代
4	コンテツサ	石原慎太郎	石原慎太郎	DOU-42	188	33.0	油 壺		ビックディール	堀江 和博	堀江 和博	なかい25II	3019		三崎マリン
5	シーライオン	西田隆太郎		木原-42	3215	31.1	芦名マリーナ		トワイライト	吉田 譲	古川 芳幸	Y-26S	3406		京急マリーナ
6	ラビアンローズ	沢野 裕治	沢野 裕治	J-41	3519	30.2	シーボニア		絵宙人II	向井 豊		バン ド7 30	3536		
7	DISUCODORI	H.SCHRODER	H.SCHRODER	Va-34	2263	24.6	高知 屋		ボイジャー	木 庭		Y-30	2196		三崎マリン
8	サマーノーズ	高村 宏	高村 宏	高井-34	3530	24.5	三崎マリン	RET.	おいどん	藤田 弘治	藤田 光春	Y-35CQ	3555		油 壺
9	リップル	始 俊弘		横山-31	3306	22.5	三崎マリン	RET.	モアジョイサンク	石川 幸久		ファースト345	386	25.7	三崎マリン
10	DOLLY	今湖 和夫	原田浩二	ELV-30	1992	21.9	シーボニア	RET.	マテシロウ	杉山 直行	高橋昭彦	ホランド-36	2817	27.5	佐島マリーナ
11	海太朗	千葉 育夫	小谷周三	ホランド33	3290	24.6	葉山マリーナ	DSQ.	かげろう	川久保史朗		横山-32	3531	23.2	諸 磯
12	AFRODITA	菅野 道		横山-28	3373	21.8	シーボニア	DNS.	UFO	川島 正通		ファ-30	1733	21.8	三崎マリン
13	シルフィード	蒲谷 和行	蒲谷 和行	なかい31	3002	21.6	シーボニア	DNS.	ISIS	北中 莊彦		YR-30	3485	22.5	シーボニア
14	タバサIII	堀口 常明	久保田茂	横山-30	3333	22.5	シーボニア	J/24クラス							
15	バーミリーオン	山本 高司	山本高司	Hitec-31	3447	22.4	葉山マリーナ	1	NOWAKI	沢村 広一			3589		佐島マリーナ
16	がめら	朝河 清		高井-31	2011	22.2	シーボニア	2	スーパ-キッズ	飯田 武之	飯田 武之		3794		三崎マリン
17	ペーシック	小坂橋博行	大川冒志	横山-28	3387	21.6	シーボニア	3	ハゼドン				3576		三崎マリン
18	サモアV	大石 巖	大石好幸	U-31	3055	22.1	シーボニア	4	エスカルゴIII	宇都木員夫	金子吉宏		2674		佐島マリーナ
19	ボインシアIIナ	山田 幸夫	川部武郎	U-30	2970	21.4	シーボニア	5	仰 秀	東大ヨット部			3832		小 網 代
20	清海波	清田 博	西原雅行	木原-33	2640	24.7	油 壺	DSQ.	エスメラルダ	植松 真			3797		シーボニア
21	クリムゾン	竹川 節男		高井-36	3152	26.2	三崎マリン	DSQ.	REPRISE	キース・J・ズナルシー			3574		京急マリーナ

## S. T. C. 成績表 '86.5.3(第5回)

フィニッシュ順位

第2下マーク廻航順位

第2上マーク廻航順位

第1下マーク廻航順位

第1上マーク廻航順位

艇名	修正 順位	修正時間	廻航 順位	修正 順位	修正時間	廻航 順位	修正 順位	修正時間	廻航 順位	艇名	総合 順位	修正時間	フィニッシュ 時間	着順
瑠璃光	1	18'12"	1	1	1'05'48"	1	1	1'23'49"	4	瑠璃光	1	1'46'13"	2'05'21"	1
ゼーアドラー	2	18'17"	2	2	1'07'53"	2	2	1'25'40"	6	DISCODORI	2	1'46'26"	2'20'47"	4
DISCODORI	3	20'00"	4	3	1'08'45"	4	3	1'26'13"	5	がめら	3	1'48'28"	2'28'21"	6
ICHIIYO	4	20'22"	5	4	1'09'16"	6	4	1'26'38"	1	シーライオン	4	1'48'52"	2'13'08"	2
シーライオン	5	20'49"	3	5	1'09'17"	3	5	1'26'38"	7	海太郎	5	1'49'30"	2'24'51"	5
がめら	6	21'01"	6	6	1'09'59"	7	6	1'27'26"	2	メルルーサ	6	1'49'32"	2'30'02"	7
リップル	7	21'16"	7	7	1'10'11"	9	7	1'27'43"	8	ICHIIYO	7	1'50'45"	2'30'24"	8
メルルーサ	8	21'36"	9	8	1'10'23"	5	8	1'27'56"	9	ゼーアドラー	8	1'52'14"	2'15'30"	3
は組	9	21'37"	8	9	1'10'27"	8	9	1'27'59"	10	タハサIII	9	1'52'16"	2'32'53"	9
ネフノレオ	10	22'03"	10	10	1'10'49"	10	10	1'28'13"	11	ジュルビアン	10	1'52'17"	2'33'34"	10
タハサIII	11	22'09"	11	11	1'11'05"	12	11	1'29'00"	3	は組	11	1'53'13"	2'33'44"	11
ベシック	12	22'35"	14	12	1'11'12"	11	12	1'29'41"	12	TRACER	12	1'55'35"	2'38'05"	12
ジュルビアン	13	22'39"	13	13	1'11'48"	13	13	1'30'29"	13	ネフノレオ	13	1'55'53"	2'38'16"	13
TRACER	14	22'55"	15	14	1'12'45"	14	14	1'30'31"	14	リップル	14	1'56'39"	2'38'52"	14
海太郎	15	23'06"	12	15	1'14'17"	16	15	1'33'09"	16	サモアV	15	1'58'21"	2'42'06"	16
アルカンシェル	16	23'20"	17	16	1'15'27"	18	16	1'35'16"	20	シルフィード	16	1'59'46"	2'45'15"	20
ポインシアンナ	17	23'51"	21	17	1'15'39"	21	17	1'35'58"	18	アルカンシェル	17	2'00'00"	2'42'57"	17
バーミリオ	18	23'57"	20	18	1'16'14"	19	18	1'36'00"	21	バーミリオ	18	2'00'20"	2'44'06"	19
DOLLY	19	24'12"	22	19	1'16'39"	22	19	1'36'13"	22	ベシック	19	2'01'14"	2'47'16"	23
AFRODITA	20	24'23"	23	20	1'17'22"	23	20	1'37'32"	24	ポインシアンナ	20	2'01'49"	2'48'35"	25
シルフィード	21	24'49"	24	21	1'18'09"	24	21	1'38'12"	25	DOLLY	21	2'02'40"	2'48'30"	24
サモアV	22	25'07"	25	22	1'19'12"	27	22	1'38'26"	26	かげろ	22	2'03'15"	2'46'10"	22
マテンロウ	23	25'24"	18	23	1'19'49"	25	23	1'39'37"	23	AFRODITA	23	2'03'41"	2'50'09"	27
かげろ	24	26'22"	27	24	1'21'46"	20	24	1'42'51"	19	マテンロウ	24	2'09'56"	2'45'39"	21
フライングティンカーベル	25	26'23"	29	25	1'23'36"	29	25	1'47'24"	30	フライングティンカーベル	25	2'11'15"	2'03'17"	30
くろしおIII	26	28'23"	30	26	1'28'46"	30	26	1'49'46"	28	くろしおIII	26	2'14'29"	2'58'51"	28
エボニーII			28			28			29	エボニーII			3'00'40"	29
しらゆり			31			31			31	しらゆり			3'04'46"	32
J/24クラス										J/24クラス				
ハゼドン	1		16	1		15	1		15	ハゼドン	1		2'39'40"	15
カレースェ	2		19	2		17	2		17	カレースェ	2		2'43'59"	18
エスカルゴIII	3		26	3		26	3		27	エスカルゴIII	3		2'49'17"	26
仰秀	4		32	4		32	4		32	仰秀	4		3'04'28"	31

## 参加艇及び総合結果一覧表(第5回)

'86.5.3

総合 順位	艇 名	オーナー名	スキップ バー名	セーラー No.	艇 種	レーティング	ホームボート	総合 順位	艇 名	オーナー名	スキップ バー名	セーラー No.	艇 種	レーティング	ホームボート
1	瑠璃光	菅原 留意	萬田小錦昌秀	3280	KAN-45	34.5	高知屋造船	17	アルカンミエルII	福田祐一郎	佐々木孟	3494	横山-30	22.7	シーボニア
2	DISCODORI	H. SCHRODER	H. SCHRODER	2263	Va.34	24.6	高知屋造船	18	バーミリアン	山本 高司	山本高司	3447	Hitec-31	22.4	葉山マリナー
3	がめら	朝河 清		2011	高井-31	22.2	シーボニア	19	ペーシック	小坂橋博行	大川昌志	3387	横山-28	21.6	シーボニア
4	シーライオン	西田隆太郎		3215	木原-42	31.1	芦名マリナー	20	ボインシアナII	山田 幸夫	大杉文哉	2970	U-30	21.4	シーボニア
5	海太朗	千葉 育夫	小谷周三	3290	ホランド33	24.6	葉山マリナー	21	DOLLY	今瀬 和夫	原田浩二	1992	ELV-30	21.9	シーボニア
6	メルルーサ	杉田 泰一	杉田 泰一	2466	なまよし25	22.1	諸磯	22	かげろう	川久保史朗	川久保史朗	3531	横山-32	23.2	諸磯
7	ICHIJUO III			1155	横山-30	22.7	小網代	23	AFRODITA	菅野 道		3373	横山-28	21.8	シーボニア
8	SEADLER V	堀内 滋夫	島本洋一	3233	ビーター42	32.3	葉山マリナー	24	マテンロウ	杉山 直行	高橋昭彦	2817	ホランド36	27.5	佐島マリナー
9	タバサIII	堀口 常明	飯島富太郎	3333	横山-30	22.5	シーボニア	25	フライングティンカーベル	別部 尚司		3305	Y-30C	20.8	三崎マリナー
10	ジュルビアン	三宅 直晴	三宅直晴	2616	なまよし25	22.2	選手マリナー	26	くろしお III	斉藤 倫彦	斉藤倫彦	2690	なまよし33	24.2	小網代
11	は組	野口 隆司		3518	Y-R30	22.7	木更津		エボニー II	武盛 文彦		2959	パイネ728		葉山マリナー
12	TRACER	三宅 智久	三宅智久	3510	高井-31	22.2	諸磯		しらゆり						
13	ネフノレオ	駱原 宣彦	林 伸泰	3236	横山-30	22.3	葉山マリナー	1	ハゼドン	小美濃孝広	小美濃孝広	3576	J/24		三崎マリナー
14	リップルII	碯 俊弘	金田浩二	3306	横山-31	22.5	三崎マリナー	2	カレーシュ	石井 健		3592	J/24		佐島マリナー
15	サモアV	大石 巖		3055	U-31	22.1	シーボニア	3	エスカルゴIII	宇都木員夫	宇都木員夫	2672	J/24		佐島マリナー
16	シルフィード	蒲谷 和行	蒲谷和行	3002	なまよし31	21.6	シーボニア	4	仰 秀 IV	東大ヨット部	斉藤 茂	3832	J/24		小網代

## S.T.C.成績表 '86.6.15(第6回)

第1上マーク廻航順位

艇名	修正順位	修正時間	廻航順位
ゼーアドラー	1	15' 59"	1
コンテッサ	2	16' 14"	2
クリムゾン	3	16' 35"	4
メイプル	4	16' 35"	6
ラビアンローズ	5	16' 36"	5
Mrs.メデューサ	6	16' 57"	8
ビクアアップル	7	17' 06"	3
DISCODORI	8	17' 39"	10
海太郎	9	17' 54"	11
ブルーノート	10	17' 55"	7
リッパル	11	17' 58"	13
白鯨	12	18' 00"	12
マテンロウ	13	18' 09"	9
タハサIII	14	18' 46"	16
ICHUJO	15	18' 54"	17
バミミリオ	16	19' 05"	18
かめら	17	19' 07"	20
ネフノレオ	18	19' 15"	21
ボインシアナII	19	19' 23"	25
かげろう	20	19' 46"	23
ベインシク	21	19' 48"	26
TRACER	22	20' 21"	28
シルフィード	23	20' 23"	30
メルルーサ	24	20' 27"	29
フライングティンカーベル	25	21' 33"	34
AFRODITA	26	22' 03"	35
HIPPO	27	23' 20"	36
エバーグリーン	28	25' 35"	37
かぐや姫			15
松浦人II			33
モアジョイサンク	RET		
C-3PO	RET		
青海波	RET		
ゼロII	DSQ		
エレクトロン	DSQ		
J/24クラス			
スノーバーキッズ	1		14
オリブ	2		19
マリナー	3		22
NOWAKI	4		24
アーク	5		27
ハゼドン	6		31
エスカゴIII	7		32
モビーディック	PSQ		

第1下マーク廻航順位

艇名	修正順位	修正時間	廻航順位
ゼーアドラー	1	29' 57"	1
コンテッサ	2	30' 12"	2
クリムゾン	3	30' 26"	7
メイプル	4	30' 42"	3
ラビアンローズ	5	30' 47"	8
Mrs.メデューサ	6	30' 53"	5
ビクアアップル	7	31' 41"	13
DISCODORI	8	31' 44"	10
海太郎	9	31' 53"	11
ブルーノート	10	32' 02"	6
リッパル	11	32' 07"	4
白鯨	12	32' 08"	12
マテンロウ	13	32' 19"	9
タハサIII	14	32' 51"	16
ICHUJO	15	33' 07"	18
バミミリオ	16	33' 13"	17
かめら	17	33' 16"	20
ネフノレオ	18	33' 23"	21
ボインシアナII	19	34' 00"	22
かげろう	20	34' 08"	26
ベインシク	21	34' 22"	28
TRACER	22	34' 24"	30
シルフィード	23	34' 37"	27
メルルーサ	24	34' 44"	29
フライングティンカーベル	25	35' 55"	35
AFRODITA	26	36' 05"	34
HIPPO	27	37' 21"	36
エバーグリーン	28	40' 34"	37
かぐや姫			14
松浦人II			33
モアジョイサンク	RET		
C-3PO	RET		
青海波	RET		
ゼロII	DSQ		
エレクトロン	DSQ		
J/24クラス			
スノーバーキッズ	1		15
オリブ	2		19
マリナー	3		23
NOWAKI	4		24
アーク	5		25
ハゼドン	6		31
エスカゴIII	7		32
モビーディック	DSQ		

第2上マーク廻航順位

艇名	修正順位	修正時間	廻航順位
ゼーアドラー	1	46' 22"	1
コンテッサ	2	46' 54"	6
クリムゾン	3	47' 03"	2
メイプル	4	47' 51"	3
ラビアンローズ	5	48' 18"	8
Mrs.メデューサ	6	49' 09"	4
ビクアアップル	7	49' 20"	9
DISCODORI	8	49' 34"	7
海太郎	9	49' 35"	10
ブルーノート	10	49' 36"	13
リッパル	11	50' 26"	12
白鯨	12	51' 06"	5
マテンロウ	13	51' 10"	17
タハサIII	14	51' 24"	23
ICHUJO	15	51' 34"	18
バミミリオ	16	51' 43"	11
かめら	17	51' 53"	20
ネフノレオ	18	52' 07"	19
ボインシアナII	19	52' 16"	21
かげろう	20	53' 03"	24
ベインシク	21	53' 31"	27
TRACER	22	53' 51"	28
シルフィード	23	54' 25"	30
メルルーサ	24	55' 11"	29
フライングティンカーベル	25	55' 49"	32
AFRODITA	26	57' 23"	35
HIPPO	27	58' 08"	36
エバーグリーン	28	1' 03' 53"	37
かぐや姫			14
松浦人II			34
モアジョイサンク	RET		
C-3PO	RET		
青海波	RET		
ゼロII	DSQ		
エレクトロン	DSQ		
J/24クラス			
スノーバーキッズ	1		15
オリブ	2		16
マリナー	3		22
NOWAKI	4		25
アーク	5		26
ハゼドン	6		31
エスカゴIII	7		33
モビーディック	DSQ		

第2下マーク廻航順位

艇名	修正順位	修正時間	廻航順位
ゼーアドラー	1	57' 50"	6
コンテッサ	2	57' 56"	1
クリムゾン	3	58' 35"	2
メイプル	4	58' 56"	8
ラビアンローズ	5	59' 13"	3
Mrs.メデューサ	6	1' 00' 00"	13
ビクアアップル	7	1' 00' 13"	9
DISCODORI	8	1' 00' 20"	11
海太郎	9	1' 00' 24"	4
ブルーノート	10	1' 00' 46"	12
リッパル	11	1' 00' 53"	7
白鯨	12	1' 01' 40"	17
マテンロウ	13	1' 01' 57"	18
タハサIII	14	1' 02' 17"	23
ICHUJO	15	1' 02' 33"	19
バミミリオ	16	1' 02' 34"	10
かめら	17	1' 02' 43"	20
ネフノレオ	18	1' 02' 57"	22
ボインシアナII	19	1' 02' 59"	21
かげろう	20	1' 03' 06"	5
ベインシク	21	1' 03' 44"	26
TRACER	22	1' 04' 30"	28
シルフィード	23	1' 04' 56"	30
メルルーサ	24	1' 06' 01"	29
フライングティンカーベル	25	1' 06' 56"	32
AFRODITA	26	1' 08' 00"	35
HIPPO	27	1' 10' 00"	36
エバーグリーン	28	1' 15' 24"	37
かぐや姫			14
松浦人II			34
モアジョイサンク	RET		
C-3PO	RET		
青海波	RET		
ゼロII	DSQ		
エレクトロン	DSQ		
J/24クラス			
スノーバーキッズ	1		15
オリブ	2		16
マリナー	3		24
NOWAKI	4		25
アーク	5		27
ハゼドン	6		31
エスカゴIII	7		33
モビーディック	DSQ		

フィニッシュ順位

艇名	総合順位	修正時間	フィニッシュ順位	着順
ゼーアドラー	1	1' 13' 36"	1	1
クリムゾン	2	1' 14' 04"	2	6
コンテッサ	3	1' 14' 16"	3	2
Mrs.メデューサ	4	1' 15' 41"	4	8
メイプル	5	1' 15' 50"	5	4
ブルーノート	6	1' 16' 04"	6	3
DISCODORI	7	1' 17' 18"	7	9
リッパル	8	1' 17' 21"	8	13
ラビアンローズ	9	1' 17' 53"	9	7
白鯨	10	1' 18' 06"	10	11
海太郎	11	1' 18' 30"	11	12
タハサIII	12	1' 18' 47"	12	15
ネフノレオ	13	1' 19' 53"	13	17
ビクアアップル	14	1' 20' 01"	14	5
ICHUJO	15	1' 20' 29"	15	19
マテンロウ	16	1' 20' 30"	16	10
バミミリオ	17	1' 20' 32"	17	20
かめら	18	1' 21' 05"	18	21
TRACER	19	1' 21' 13"	19	22
シルフィード	20	1' 21' 46"	20	24
ボインシアナII	21	1' 22' 05"	21	26
ベインシク	22	1' 23' 01"	22	28
AFRODITA	23	1' 23' 06"	23	27
かげろう	24	1' 25' 50"	24	29
メルルーサ	25	1' 27' 38"	25	32
フライングティンカーベル	26	1' 30' 11"	26	36
HIPPO	27	1' 30' 12"	27	35
エバーグリーン	28	1' 39' 57"	28	37
かぐや姫				14
松浦人II				34
モアジョイサンク	RET			
C-3PO	RET			
青海波	RET			
ゼロII	DSQ			
エレクトロン	DSQ			
J/24クラス				
オリブ	1			16
スノーバーキッズ	2			18
アーク	3			23
マリナー	4			25
NOWAKI	5			30
ハゼドン	6			31
エスカゴIII	7			33
モビーディック	DSQ			

## 参加艇及び総合結果一覧表(第6回)

86.6.15

総合 順位	艇 名	オーナー名	スキッパー名	艇 種	セール No.	レー ン グ	ホーム ポート
1	ゼーアドラー	堀内 澄夫		ビーターゾン42	3233	32.3	葉山マリナーナ
2	クリムゾン	竹川 節男		高井-36	3152	26.2	三崎マリン
3	コンテッサ	石原清太郎	内藤 清朗	DOU-42	188	32.7	油 壺
4	Mrs.メデューサ	木原 和喜	木原 和喜	高井-33	3044	24.4	深 浦
5	メイプル	橋本 博	橋本 博	横山-40	2611	30.1	横浜市民ハーバー
6	ブルーノート	五十井 進	小貫 収一	ITO-41	3544	31.4	江 の 島
7	DISCODORI	H. SCHRODER		Va-34	2263	24.6	高 知 屋
8	リップル	碓 俊弘		横山-31	3306	22.5	三崎マリン
9	ラビアンローズ	沢野 裕治	吉田 正雄	J-41	3519	30.2	シーボニア
10	白 鯨	池 道正	岡東 英郷	ブルーマリン-34	2857	24.5	油 壺
11	海太朗	千葉 育夫	小谷 周三	ホランド-33	3290	24.6	葉山マリナーナ
12	タバサ III	堀口 常明	久保田 茂	横山-30	3333	22.5	シーボニア
13	ネフノレオ	馬谷原宣彦	深谷 恒治	"	3236	22.3	葉山マリナーナ
14	ビクアアップル	松田 栄夫		ホランド-44	2299	34.3	シーボニア
15	ICHUJO			横山-30	1155	22.7	小 瀬 代
16	マテンロウ	杉山 直行	斉藤 光輝	ホランド-36	2817	27.5	江 の 島
17	バミリアン	山本 高司	山本 高司	Hitec-31	3447	22.4	葉山マリナーナ
18	がめら	朝河 清		高井-31	2011	22.2	シーボニア
19	TRACER	三宅 智久	三宅 智久	"	3510	22.2	諸 磯
20	シルフィード	蒲谷 和行		なかよし-31	3002	21.6	シーボニア
21	ポインシアナ II	山田 幸夫	大杉 文哉	U-30	2970	21.4	"
22	ベシーック	小坂崎博行		横山-28	3387	21.6	"
23	AFRODITA	菅野 道		"	3373	21.8	"
24	かげろう	川久保史朗	石井 秀哉	横山-32	3531	23.2	諸 磯
25	メルルサ	杉田 泰一	杉田 泰一	なかよし-295	2466	22.1	"
26	フライングパンカール	別部 高司		Y-30C	3305	20.8	三崎マリン
27	HIPPO	殿井 宏志	松井 哲也	ホランド-30	1960	21.2	三崎マリン
28	エバングリン	加藤 哲夫		Y-30S	3317	22.3	江 の 島
RET	かくや姫				3575		三崎マリン
RET	モアジョイサンク	石川 幸久	高橋 正博	ファースト345	386	25.7	三崎マリン
RET	C-3PO	熱田 三士行	熱田 三士行	Y-30S	3505	20.0	選手マリナーナ
RET	青海波	清田 博	西原 雅行	木原-33	2640	24.6	油 壺
DSQ	ゼ ロ II	津村 重幸		Fre-41	3410	31.5	三崎マリン
DSQ	エレクトロン	小高 敏夫		Y-39	3360	29.4	選手マリナーナ
	ライオンクサン				3215		

バンドフエットクラス	オーナー名	スキッパー名	艇種	セール No.	ホーム ポート
1	サ エ ラ	沼田 尚文	井上一典	3561	選手マリナーナ
2	ソリチュード	山田 凱通	"	2986	葉山マリナーナ
3	友 架 里	白鳥 祐市	"	3435	葉山マリナーナ
4	ラ・ジャンテーズ	天野 貴之	"	3524	芦名マリナーナ
5	絵 宙 人 II	向井 豊	"	3536	三崎 マリン
6	ゼーアドラー	大原 一夫	"	5130	佐島マリナーナ
RET	スブラッシュ	畔上 光生	"	3593	三崎 マリン
DSQ	サンブルメ	戸田 宏	"	3083	シーボニア

J/24クラス	オーナー名	スキッパー名	艇種	セール No.	ホーム ポート
1	オ リ ー フII	萩原 重一	萩原 重一	2871	佐島マリナーナ
2	スーパークィーズ	飯田 武之	"	3794	三崎 マリン
3	ア ク ア クIII	坂崎 隆	坂崎 隆	2894	諸 磯
4	マ リ ー ナ		"	3578	佐島マリナーナ
5	NOWAKI	斉藤 国夫	"	3589	佐島マリナーナ
6	ハ ゼ ド ン	小美濃孝広	"	3576	三崎 マリン
7	エスカルゴIII	宇都木員夫	"	2674	佐島マリナーナ
PSQ	モビーディック	ニッソット部	"	2692	佐島マリナーナ

スタート後、またまた左に振れた風で、一本上りきみになった。2回目の上りで、コースチェンジを行って、やっと文句の無いコースを設定することができた。

マークの上げ下げを何回行ったことか、運営泣かせの風であった。また移動した上マークの水深は、430mもあり、本部船のアンカーリングに900m近いロープを使ったが、これは、新記録であったと思う。

成績は13秒というきわどいタイムで〈瑠璃光〉が前回に引き続き2連勝、2位に〈DISCODORI〉、3位には、久々の活躍で〈がめら〉が入った。

スタート4分前に、船底にひっかかった藻を取る為に、突然、スッポンポンになって水に入った〈DISCODORI〉のオーナー、シュローダー氏、ギャラリーをあ然とさせたガッツが何よりも光った第5回S.T.C.であった。

## 6月15日 第6回 レース概況

6月15日、第6回のS.T.C.は、51艇と今年最高の参加で熱戦がくりひろげられた。

風速は平均4m/sec. 180°~190°と安定し、快晴のもと視界も良く、気温のわりには湿気が少なく、最高のヨット日和であった。まるで地中海を思わせる海であった。

午前中の練習コースは企画が盛り沢山で、まず、バンドフェットクラス8艇によるスクラッチレースがスタートし、NORC安全委員会の要請による〈コンテッサ〉の落水者救助テスト、〈がめら〉のライフラフトテストと続き、ギャラリーと化した参加艇を大いに楽しませ、また考えさせ……といった具合であった。

安全委員会のテストは、後日発表されるであろうレポートを楽しみにしたい。

バンドフェットのレースは、スクラッチらしく艇団まとまって走っていたが、その中でトップを取った〈サエラ〉が、各コースを安定した走りでもとめ、2位以下を引き離し、最後は結局ダントツでフィニッシュした。

2回めのクローズホールドからは、左に10°振れた風で片上りきみになり、多少気の毒なことをしてしまった。

午後の本番レースは、大いに見ごたえがあった。

スタートラインの長さは充分で、角度も左右ほぼイーブン。

この中で残念だったのは、〈ゼロII〉〈エレクトロン〉〈モビーディック〉の3艇のリコールを出したことである。

〈ゼロII〉には通告できたが、スタート号砲直後3列の線ができ、その最前列にいた〈エレクトロン〉〈モビーディック〉には近づけず、通告できなかった。午前の練習レースでは良く走っていた〈エレクトロン〉だっただけに、なおさら残念というしかない。

最初のレースからラウンド・ジ・エンド・ルールを適用していることを忘れないで欲しい。

レースは〈ゼアドララー〉と〈コンテッサ〉が最初から最後まで接戦状態で走り、結局、この2艇が、総合の1位と3位になった。これを追ったのが久々の活躍で〈クリムソン〉(2位)、〈メデューサ〉(4位)は立派であった。

フリート対抗レースの後でもあり、ケンウッドカップ参加準備など、参加艇が心配されたが、オレンジカップを上回る大盛況、大型モーターボートの観戦、スクラッチレース等々、いよいよS.T.C.も定着してきたようです。これまで直接、間接に応援いただいた皆様に感謝致します。参加されている皆様には、是非今後ともS.T.C.を皆様のベースでご利用下さい。

### ●協力各社

サントリー (アワCAN, ワインクーラー他)  
味の素 (アジシオ, ウーロン茶, COLA 他)  
エスビー食品 (鈴木クン, 佐藤クン, 角びし他)  
ヤマハ東京 (運営艇 PC-26)

サッポロビール (ネクストワン缶ビール)

シーボニア (運営用施設借用, 艇係留)

### ●運営協力者

武村氏 (エスピースポーツクラブ)

鷲尾氏 (スーパーサンバード)

堀口氏 (タバサオーナー)

高木氏 (ヤマハ東京)

小野沢氏 (ヤマハ東京)

高杉氏 (カメラマン)

広谷氏 (スーパーサンバード)

初鹿野氏 (ミドルボートクラブ)

秋原氏, 秋原夫人

高城氏

スーパーサンバードクルー, 白鯨クルー, かぐや姫クルー, マテンロウクルー, 多数

## 〔外野席から〕

今回から技術的な面で気付いた点を、このタイトルで発表させて頂きます。あくまでも外野席からの観戦の域を脱していませんのであしからず。

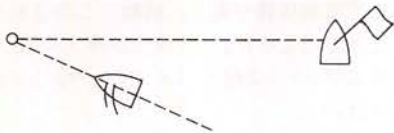
### 1. クルーザーのリコールは致命傷

★ディンギーとちがって消しレースのないレースでのリコールは取り返しの付かない失敗といって良い。

トップスピードになるまで時間のかかるクルーザーでは、スタートライン上に止めて待つディンギータイプのスタートは良いスタート方法とは言えない。助走を付けた艇には、必ず号砲後まもなく追い抜かれてしまうことになる。

★船首をマークに合わせて艇の中央に立って、船首尾

線を見通してみる。この延長線上にスタートボールがなければラインに入っていることになる。



★スタートラインを横切るときの数秒の遅れはロスではない。計時も安全な秒読みを心掛けるべきで、ドキドキするようなスタートはけっして良いスタートとはいえない。

2. イーブンのスタートライン、佐島沖、南寄りの風、右コースか、左コースか？

城ヶ島から江の島へ流れる潮が一般的で S. T. C. を見る限り、風向230°以下であれば岸、すなわち左コースが十中八九良く、これ以上であれば潮は真横となって左右の差が無く、さらに風も強まるにつれて右（西）方向に振れる特徴がある。これによってスタートラインのどちらから出るかを定めることが出来る。

### 3. 一斉スタートの限界

40フィートクラス30フィートクラスを同時にスタートさせた時、艇数が多くなるとどうしても小型艇は不利になる。スタート後5分間ぐらいいは40フィートクラスに風を奪われ、本部船寄りから出て即タックする以外、どこを走っても悪い風の中を走らなければならない。

次回8月のレースは5分間インターバルのスタートにし、大型艇からスタートさせたい。5分間であれば、風の変化に対する運不運も少なくすみ、総合結果を比べてみても問題ないと思われる。

（小松：記）

お知らせとお願い

\* 8月23日(土)にシーボニアでパーティーを開く予定です。盛り沢山の企画を考えていますので、楽しみにお待ち下さい。

\* 参加費の支払がまだすんでいない艇がありますので、お早めをお願いします。

下記へお振込みください。

住友銀行有楽町支店 当座 No270006 (株)有楽町西武

## 第9回 関東支部フリート対抗チームレース

レース委員長：初鹿野 幸生

今回でフリート対抗レースも第9回を迎え、年毎にレベルも上がっているようです。参加艇も、秋の熱海ジャパンカップの前哨戦として、またハワイで行なわれるケンウッドカップの最終チューニングレースとして、質も高くなって来ている。参加艇総数29艇（予備艇2を含む）、乗員登録総数441名、乗艇者延人員1104名（内訳は会員915名、非会員189名）が5月17日をおわきりに6月1日まで毎土、日曜日にかけてトライアングル3レース、オフショア2レースが行なわれた。期間中天候は、第3レースを除いては天気にもぐまれ、運営者側もホッとしている。ノーレースは参加者側も運営者側もいやなものである。運営者側は、とにかく参加艇にたっぷりレースを楽しんでもらい、運営側は、そのレースを観戦させてもらい楽しもうと頑張って運営に努めました。

レース全艇について今回のフリート対抗レースは、どちらかといえば、ミドルポート向きの風が多く、風の振れが多く、なやまされた艇が多かったのではないかな。また、潮の流れもかなり速い場所があった。

昨年度優勝の油壺Aチーム、〈コンテッサ〉、〈織姫〉、〈ゼロII〉が今年も優勝するか、迎え打つのは優勝候補の葉山Aチーム、〈瑠璃光〉、〈ディスコドリ〉、〈あさま〉、そして、油壺Bチームの〈からす〉、〈クリムソン〉、〈サマーノーズ〉であったが結果は、終始滑つ

ていた〈サマーノーズ〉の健闘があつて油壺Bチームが優勝し、個別でも〈サマーノーズ〉の独り舞台となった。しかし初島レース、大島レースをファースホーム、そして大島レース2年連続優勝の〈コンテッサ〉は、大いに評価すべき成績であろう。

### 第1レース

風向237° 風速5～6M、快晴、スタート11:00 コース(A) 真夏を思わせる太陽がまぶしいキラキラとした天気、フリート対抗レースの初日にふさわしい日である。

スタートは、〈ゼアドラー〉のリコールを除いて一直線のきれいなスタートだった。〈ゼアドラー〉は一分前にライン上に、そしてスタート時は半艇身が出ていた。シリーズレースでは痛い失格である。〈ゼロII〉と〈瑠璃光〉のトップ争いとなったが、〈ゼロII〉の方がスピードに勝っていた。ミドルポートでは、新艇〈サマーノーズ〉と〈ケロニア〉が、特に目立った走りをしてた。この時期は藻が多く、滑りに影響を受けた艇が多かった様である。

スタートしてから東寄りの風振れの傾向が強く、195°にマークを打ち直してフィニッシュした。全コース16.3マイルとしては、長時間のトップ艇フィニッシュ3時21分、最終艇4時間38分という結果となった。

（28頁へ続く）

## 1986年 関東支部 フリート対抗レース 第1,2,3,4,5レース 艇別 フリート別 成績表

1986.06.01 レース委員長:初鹿野 幸生

フリート (チーム)	Sail No.	艇 名	TYPE	Rft	T.C.F.	第1レース 得点	第2レース 得点	第3レース 得点	第4レース 得点	第5レース 得点	艇 別 合 計		フリート別合計	
											得点	順位	得点	順位
シーボニア (デコボコ)	3519	LAVIEN ROSE	J-41	30.2	0.8095	26.00	19.50	18.00	17.00	26.00	106.50	11	239.00	6
	3387	BASIC	YOK 28	21.6	0.7248	10.00	30.00	12.00	7.00	4.00	63.00	21		
	3510	TRACER	YAK 31	22.2	0.7312	11.00	25.50	7.00	18.00	8.00	69.50	19		
	3551	FIN MACHEUR(予備艇)	Y R 30	22.7	0.7364									
シーボニア (うがしま)	3373	AFRODITA	YOK 28	21.7	0.7258	8.00	36.00	11.00	9.00	24.00	88.00	16	195.50	8
	3002	SYLPHIDES 3	NAK 31	21.6	0.7248	-1.00	15.00	10.00	14.00	10.00	48.00	25		
	2011	がめら	TAK 31	22.3	0.7322	6.00	22.50	9.00	2.00	20.00	59.50	22		
	3280	瑠璃光	KAN 45	34.5	0.8474	12.00	1.50	27.25	8.00	44.00	92.75	14		
葉山 (A)	2263	DISCO DORI	D B 2	24.6	0.7560	18.00	31.50	19.00	26.00	32.00	126.50	2	306.25	3
	3295	あさま	YAM 38	28.5	0.7939	13.00	27.00	23.00	6.00	18.00	87.00	17		
	3233	SEE ADLER V	DOU 42	32.3	0.8283	-1.00	4.50	20.00	21.00	40.00	84.50	18		
	3290	海太郎 III	HOL 33	24.6	0.7560	20.00	34.50	13.00	10.00	36.00	113.50	7		
葉山 (B)	3447	VERMILION	H T 31	22.4	0.7333	3.00	37.50	6.00	4.00	42.00	92.50	15	290.50	5
	188	CONTESSA Ⅷ	DOU 42	32.7	0.8318	17.00	6.00	24.00	15.00	50.00	112.00	8		
	3335	織姫	FRE 40	31.5	0.8212	25.00	12.00	22.00	16.00	34.00	109.00	10		
	3410	ZERO II	FRE 40	31.5	0.8212	27.25	3.00	25.00	19.00	46.00	120.25	5		
油壺 (A)	3220	KARASU	TAK 40	30.1	0.8086	21.00	13.50	26.00	13.00	52.00	125.50	3	380.25	1
	3152	CRIMSON	TAK 36	25.9	0.7689	14.00	33.00	1.00	25.00	22.00	95.00	12		
	3530	SUMMER KNOWS	TAK 34	24.8	0.7580	23.00	39.00	16.00	27.25	54.50	159.75	1		
	2640	青海波	KIH 33	24.6	0.7560	7.00	7.50	8.00	3.00	6.00	31.50	27		
油壺 (B)	3306	RIPPLE II	YOK 31	22.4	0.7333	4.00	18.00	1.00	23.00	12.00	58.00	24	182.50	9
	2857	白 鯨	IKE 34	24.5	0.7550	19.00	24.00	15.00	5.00	30.00	93.00	13		
	3044	MRS. MEDAUSAE	TAK 33	24.4	0.7540	22.00	10.50	17.00	22.00	38.00	109.50	9		
	2535	ALOHA	TAK 41	30.3	0.8105	15.00	21.00	21.00	20.00	48.00	125.00	4		
油壺 (C)	3215	SEA LION	H T 42	31.2	0.8186	16.00	16.50	1.00	24.00	2.00	59.50	22	294.00	4
	2182	KELONIA	YOK 33	24.2	0.7520	24.00	40.88	14.00	11.00	28.00	117.88	6		
	1155	一 乗 III	YOK3IN	22.4	0.7333	9.00	28.50	5.00	12.00	14.00	68.50	20		
	380	THETIS III	U-38	29.5	0.8031	5.00	9.00	1.00	1.00	16.00	32.00	26		
小綱代 (小綱代)	2212	衣笠 (予備艇)	WAT 34	23.7	0.7468					16.00	32.00	26	218.38	7

## 第3レース

風向235°, 風速10~11 M, 波高2~3 M, スタート11:30コース(B)朝から天気の変化が激しく、風はだんだん強くなっていく傾向にあった。カラッと晴れた時間があつたりしたが、レース中盤からとうとう雨が降ってきてしまった。運営側としてはありがたくない天候だった。また、こういう天候の場合は、運営側よりも参加者側になりたいものです。スタートはきれいに一直線に並び、オールフェアーでレースが始まった。予想通りこの状況では、〈瑠璃光〉が上マークをトップ廻航し、順次マーク回航していく程に、ダントツの傾向が強くなった。第2上マーク以降はフリートの順位が殆んど固定され、レーティング通りの成績となっている。

## 第4レース

フリート対抗最終戦は、天気にはめぐまれたものの

風弱く、ふれの多い、超微風の中でスタートがきられ、第1上マークまでは〈瑠璃光〉、〈ゼアドラー〉、〈織姫〉などワントン up の大型艇グループと、クラスⅢ、Ⅳのグループ、クラスⅤのグループにと、レーティング通りの集団が出来つつ、サイドマークより、下マークに向かったが、下マークの附近にて潮と風が悪く、全艇再スタートといった感じで一団となってしまう、大型艇不利のレース展開になってしまった。この後、多少風が吹いてきたものの、ふれが大きく、第2上と第2サイドマークの打ち換えなどコミッティーなかせの風で、第3下流し込みフィニッシュとなった。

全般的に微風の中、〈サマーノーズ〉、〈ディスコードリー〉、〈クリムソン〉のクラスⅣの艇が良く走っているのが目についたレースでした。

\*

# サマーレガッタに出ると..... グアムへ行けるぞ!! 関東支部帆走委員会

昭和61年度下半期、クルーザーレーティング適用のレースプランを下記の日程で行います。奮ってご参加ください。

レース形式はオープンレースとし、だれでも参加できるようにし、各レース終了後にパーティと表彰式も行います。

夕日を眺めながらレースをさかんに冷たいビールを飲み、心ゆくまで楽しみたいと思います。

なお、今シリーズ出場艇に対しグアム・レースでおなじみの「コンチネンタル航空」より、グアム往復の航空券を提供していただきました。最終レース終了後にパーティ会場で抽せんで差し上げます。

## 記

〈日時〉	〈スタート時間〉	〈担当フリート〉
8月3日(日)	11:00	シーボニア
8月10日(日)	11:00	油壺・諸磯
8月23日(土)	13:00	江の島

(各フリートとも仮停泊可能)

〈出艇料〉 1艇につき 4,000円

〈表彰〉

- 各レースごとに表彰式およびパーティを担当フリートで行います。
- シリーズの総合優勝の表彰も行います。
- グアム往復航空券は、最終レース後のパーティ時に抽せんを行いますが、1レース出場ごとに1回の抽せん資格があります。数多く出場すればするほど当選のチャンスがあるということになります。
- 〈出場資格〉

- 自艇の安全航行に関する一切の責任を負うことの出来る艇長が乗艇するセーリング・クルーザー。

- クルーザーレーティングを取得して下さい。

(簡単に誰れでも取得できます。NORC 会員でなくても OK です)

- クルーザーレーティングの取得料金は、  
NORC 会員 2,000円 (会友艇および正会員が申請した艇を含む)

非 会 員 3,000円

- クルーザーレーティングに関しては NORC 本部 (504-1911) 矢嶋、または各フリートの担当者にお問い合わせ下さい。

- レース案内書および申込書は各フリートおよびハーバーにあります。

〈フリート担当者名〉

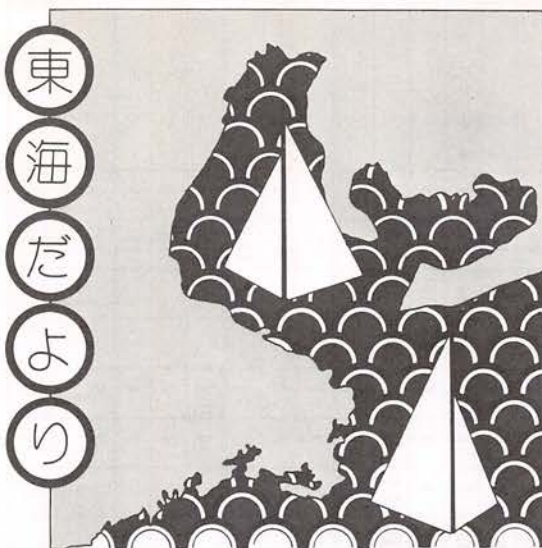
江の島	小沢 美弘	☎03-263-7201
葉山	井上 一典	☎03-254-4151
佐島	大河原大次	☎03-911-2334
シーボニア	服部 一良	☎03-212-0321(内475)
小網代	白崎謙太郎	☎03-300-8267
油壺	藤田 弘治	☎03-256-8107
諸磯	石井 竹彦	☎044-966-3742

○

〈オータムレガッタのお知らせ〉

9月21日	熱海レース
10月19日	沿岸ポイントレース
11月9日	沿岸ポイントレース

上記の予定です。くわしくは次号でお知らせします。



## 第1回 メイ・セイル・チャンピオンシップ

### 〈長良〉矢野 敏邦

昨年まで春到来を告げるスプリングシリーズとして3月下旬に行われていたシリーズ・レースを、今年からMAY・SAIL・CHAMPIONSHIPSと改称し、5月3日、4日、5日の3連休に、来るべき夏の序幕として開催された。

三河湾、日産マリナ沖で3日と5日にオリンピックコース3本、4日は日産マリナ沖からの矢湾往復60Mのオフショアの4レースを22艇が競い合った。

5月3日、第1レース、オリンピックコース。

本州南岸に停滞した前線による雨の中を午前9時スタートした。風速4～5m、東よりの風。

ファーストフィニッシュは〈ビンドⅦ〉、修正で1位〈スーパー・ルーシー〉(ニューヨコヤマ30)、2位〈チアフルⅤ〉(ヤマハR30)、3位〈ナルミ〉(ヨコヤマ30)。

第2レース、オリンピックコース。

続いて、13:00 第2レースが行われた。

1着は〈ビンドⅦ〉、修正も〈ビンドⅦ〉が1位となった。2位〈スーパー・ルーシー〉、3位〈チアフルⅤ〉であった。

5月4日、第3レースの熊野レースは西浦沖→三河湾を横切って、潮騒の神島の西を通っての外洋レース。

午前5時、P旗降下、各艇小雨の中、微風に悩まされ、特に神島→答志島、管島間の狭い伊勢湾口で無風～微風に潮に弄ばれ、この時点で(11時～12時頃)、〈カ

レラ〉、〈アヤⅢ〉、〈富洋〉、〈チアフル〉、〈シュビシュバ〉とリタイア艇が続いた。

〈チアフル〉は、第1、第2レースに上位をとり、このレースでもトップグループに出ていたのに、早過ぎたリタイアが惜しまれる。

ようようのことで外洋へ出、石鏡沖にさしかかる頃(12時30分)より次第に東の風が増し、14～18ノット、波高も1.5m～2.0mとなり、各艇順調に矢マークを廻航。この時点で〈ビンドⅦ〉は他艇を1時間程引き離して快走していた。

しかし、ヨットレースは最後までわからぬとは良く言ったもので、〈ビンドⅦ〉は伊勢湾No.3ブイ附近でカームに捉り、三河湾へ入る頃にはハーフトンの〈スーパー・ルーシー〉に一時並ばれかねる有様であった。次いで〈フローレス〉が続き〈スーパー・ルーシー〉、〈フローレス〉よりの矢マークを3分おくれで廻った〈長良〉、〈ナルミ〉が風上の〈スーパー・ルーシー〉、〈フローレス〉、下の〈ビンドⅦ〉の真中に出来た風道を通して距離を縮めて来たが、1700頃より再び吹き始めた風は東から南南東にシフトし、〈ビンドⅦ〉がファーストホーム、2着〈スーパー・ルーシー〉、3着〈フローレス〉、4着〈長良〉、5着〈ナルミ〉と入り、修正で1位〈スーパー・ルーシー〉、2位〈ナルミ〉、3位〈長良〉であった。

5月5日、久し振りの晴。最終の第4レースは15分の延期ののちスタート。

風速3～5ノット、上りで巧く風をとらえた艇が上位に上って行く。

ファーストフィニッシュは〈ビンドⅦ〉、修正1位は〈チアフルⅤ〉、2位〈スーパー・ルーシー〉、3位に〈ナルミ〉が入った。

シリーズ総合成績は、優勝〈スーパー・ルーシー〉(ニューヨコヤマ30)、2位〈ナルミ〉(ヨコヤマ30)、3位〈フローレス〉(ヨコヤマ33)。

修正で①—②—①—②と取り、総合優勝を飾った〈スーパー・ルーシー〉は、60年6月進水以来、素晴らしい走りを見せている。

## 〈HELIOS〉も走った

今回のシリーズは、どうしても全戦参加をしてみたかった。はじめての東海Sクラスと〈HELIOS〉に気が配られた処置もあり、ブルーウォーター派の域の広がることを望みながら参加した。結果的には、3隻の東海Sクラスはすべて強豪でIORの船よりもよく頑張る船ばかりで勝てなかったが、とても楽しい3日間をすごせたことに満足をしている。

第1レース、順風の中のスタートも3人でのオリンピックはドタバタの連続だった。

第2レース、再度立て直してオリンピックに挑戦、

## 1st MAY SAIL CHAMPIONSHIPS レース成績表

'86.5.3~'86.5.5 NORC東海支部

ク ラ ス	フリート セルNo	艇 名	T.C.F.	第 1 レース			第 2 レース			第 3 レース			第 4 レース			シ リ ー ズ 計			備 考				
				総 合 順位	クラ ス 順位	クラ ス 得点	総 合 順位	クラ ス 順位	クラ ス 得点	総 合 順位	クラ ス 順位	クラ ス 得点	総 合 順位	クラ ス 順位	クラ ス 得点	総 合 順位	クラ ス 順位	クラ ス 得点					
A (Ⅱ Ⅲ Ⅳ)	五ヶ所	2558	ビント 7	9	4	5	①	17½	①	8½	9	18	5	8	7	11	4	5	55½	5	26½	4	
	"	2477	朝 鳥	10	8	5	4	6	12	4	5	DNS	2	DNS	2	DNS	1	DNS	1	23	13	12	7
	幡豆B	2210	CARRERA	14	4	8	1	10	8	6	3	RET	2	RET	2	14	4	7	2	18	15	8	8
	"	3022	長 良	11	7	6	3	PMS	1	PMS	1	3	30	①	16¾	5	13	2	7	51	6	27¾	③
	富 貴	2634	MARK	13	5	7	2	4	14	2	7	DNS	2	DNS	2	10	8	6	3	29	12	14	6
	"	3121	桃 太 郎	8	10	3	6	11	7	7	2	8	20	4	10	8	10	5	4	47	9	22	5
	四田市	3525	FLAWLESS	6	12	2	7	9	9	5	4	4	28	2	14	3	15	①	8½	64	③	33½	①
	幡豆A	2765	Oceanid	4	14	①	8½	5	13	3	6	7	22	3	12	6	12	3	6	61	4	32½	②
	幡豆A	3225	NARUMI-6	3	15	3	7	7	11	3	7	2	32	2	16	4	14	3	7	72	②	37	②
	"	3255	Super Lucy	①	17½	①	9½	2	16	①	9½	①	34¾	①	18¾	2	16	2	8	83¾	①	44¾	①
B (Ⅴ)	五ヶ所	3439	RAFALE	15	3	7	3	16	2	9	1	6	24	4	12	15	3	8	2	32	11	18	6
	幡豆B	2923	ZORRA	7	11	5	5	12	6	5	5	5	26	3	14	12	6	6	4	49	8	28	③
	富 貴	3037	メ グ	12	6	6	4	14	4	7	3	RET	2	RET	2	11	7	5	5	19	14	14	7
	四田市	3257	AYA III	17	1	9	1	15	3	8	2	RET	2	RET	2	13	5	7	3	11	16	8	9
	"	3440	富 羊 V	5	13	4	6	8	10	4	6	RET	2	RET	2	9	9	4	6	34	10	20	5
	津	3398	CHEERFUL-V	2	16	2	8	3	15	2	8	RET	2	RET	2	①	17½	①	9½	50½	7	27½	4
	"	3512	CHVE CHUVA	16	2	8	2	13	5	6	4	RET	2	RET	2	16	2	9	1	11	17	9	8
	東海	1190	へリオス		3	1				RET	1			2	4			3	1		7	3	
	S	3484	WARPTHIRTY 1		①	3½				①	3½			3	2			2	2		10¾	2	※5%ペナルティー
		3539	芳 夢		2	2				2	2			①	6¾			①	3½		13¾	①	
フ リ ー ト 対 抗			五ヶ所		5	2			2	5			3	8			6	1			16	4	
			幡豆 B		3	4			6	1			2	10			4	3			18	3	
			富 貴		4	3			3	4			5	4			3	4			15	5	
			四田市		2	5			4	3			4	6			2	5			19	2	
			幡豆A		①	6½				①	6½			①	12¾			①	6½			①	30¾
		津		6	1			5	2			6	2			5	2			7	6		

走りもまずまず、ここで順位も上り3隻を背景に上マーク回航、そのままベアして各艇がハーバーに帰ることになる。各艇スピンを上げていく中、我々は3人ともグロッキー、何を急いでスピンを上げてまで走るのか？

レースが終わったつものの我々を後続艇がすぎていく。ハーバーの手前でエンジンをかけセイルを降ろして気がついたらハーバー手前のブイがゴールノ化したがつて、〈HELIOS〉はDFN。艇長会議に出席した者からの伝言にはこんなフィニッシュの仕方はなかったようだ。

二度とこんな思いはしたくなかったです。唯々〈HELIOS〉のラストフィニッシュに火花をたくさん鳴らして下さるつもりでいたコミッティの方はさぞかし妙な事態にびっくりされたことだろう。申し訳ありませんでした。

第3レース、的矢までのOFFSHOREは我々の好きなレース。神島手前からのカームで時間切れを予想。目の前で先行艇がRETIREしていくうちにスガシマ

に張りついた船を発見、〈HELIOS〉より遅い船は？それにしても先程〈ビンドⅦ〉がすごい勢いで翔んで帰ったきり誰も来ない。あと一時間様子を見て動かなければうちもRETIREの運命だった。そんな時ふと見ると、なんと的矢に向かう残り3艇は〈桃太郎〉〈オセアニッド〉他一艇。

とにかく的矢のマークを名だたるレーサ達を後に従えて回航。後はさすが各艇〈HELIOS〉からにげるように翔んでいったが〈HELIOS〉にとってここまでで充分歓喜に足りるものだった。

第5レースも終りハーバーに帰る頃にはもうパールレースのスケジュールに花が咲き、楽しかった3日間に変感謝した次第。ギンギンのレーサー達にまじって〈HELIOS〉の楽しみ方はコミッティの方々には常に重荷でしょうが、平にお許しをいただいて、もっともっと遅い楽しい船がレースをにぎわせることを望みます。最後に今大会の世話を担当された皆様に実にくうまい運営をされ一同を楽しませて下さったことに大いに賞讃の拍手を惜しみません。

## 第10回 伊勢湾合同レース

### 優勝もレディース賞も いただき！ 〈QUERIDA-3〉 竹内聡一

ハブニングは今年も起った！(去年はペラとラダーにでかいシートがからんだ)我々を含め数艇は早目にスタート海面に向かったのだが気合が入りすぎ、はるか先方まで行ってしまった。エンジン全開でかけもどる。ヨタヨタとスタートラインへたどりついたら10秒前、「フィニッシュラインはあっちだよ——」とリミット艇からヤジが飛ぶ。まわれ右してハイ、めずらしく、一列目でスタートができました。

上側に〈チアフル〉〈富羊〉下に大艇〈八州〉南西、微風のクローズで頭ひとつ抜け出すべく懸命にセイルをトリムする。(そんなことするから遅くなる?)——天気図からすれば、今日の風は西—北すなわち岸からの風となる筈、パニックスタートのため本意ながら、やや沖コースを航く我々としては岸コース群をにらみながらのレース展開となる。

ライバルハーフトンの精鋭軍団は全て我々より岸寄りに在る。〈フローレス〉が我々の後を通って沖へ落としていったが案の定、タックしてもどって来た。

煙突の煙が西に変わったのを発見、スピンをセットして待つうち、岸コースの〈カレラ〉が抜け出して行った。やがて後方の海いっばいにスピンの花が咲く。やあきれい、きれい。と、いうことは我々の前には60ftと40ftが居るだけなのだ。「大勢乗って」とか「セイ

ルが白い(ケブラーでない)」とか「デッキブラシでこすったぐらいで(船底)」とかおっしゃいますが、速けりゃいいんでしょ速けりゃ！

〈フローレス〉がやっと我々をブランケして抜いてゆく。折り返しの観測ブイに到着。トラブルのため、ジブシートを切断してタックする。ここからはクローズドリーチ。ブロー時には20ノットにもなるが、我が艇ならライトゼノアでつっぱれる。

〈芳夢〉、〈富羊〉、〈シュビシュバ〉、〈ラファール〉、〈チアフル〉とライバル艇の追走が一段と厳しい。し



第10回伊勢湾合同レース・優勝の〈ケリダ〉

## 第10回 伊勢湾合同レース

R…レーシングクラス  
C…クルージングクラス

クラス	セールNo.	艇名	着順	所要時間 h m s	T.C.F.	修正時間 h m s	クラス 順位	所 層	スキッパー
R	0210	QUERIDA 3	4	3:04:26	0.7321	2:15:37	①	OYC	竹内 聡一
"	3539	芳 夢	5	3:06:25	0.7333	2:16:41	②	津	加藤 芳正
"	3525	フローレス	③	3:02:12	0.7530	2:17:11	③	津	森 幸美
"	3440	富 羊	6	3:08:14	0.7396	2:19:13	4	YYC	岡本 郁和
"	3512	シュビシュバ	7	3:10:32	0.7312	2:19:19	5	津	山本 秀紀
"	3398	チアフル V	9	3:11:17	0.7343	2:20:27	6	四日市	小川 伸也
"	3439	RAFALE	8	3:10:54	0.7364	2:20:34	7	五ヶ所	五藤 敏
"	2989	ミッキーマウス	15	3:22:32	0.6959	2:20:56	8	YYC	榊原 久晴
"	3243	みなさん	18	3:24:23	0.6947	2:21:59	9	YYC	山本 修
"	3073	シルバーウェーブ	11	3:18:15	0.7215	2:23:02	10	YYC	大橋 貞夫
"	2210	CARRERA	②	3:54:25	0.8221	2:23:23	11	五ヶ所	鈴木 憲
"	1888	ア ニ ー	24	3:31:18	0.6831	2:24:20	12	YYC	筒井 憲昭
"	3066	WHOOPEE	12	3:19:42	0.7248	2:24:44	13	津	手塚 辰彦
"	2921	MOSSY-TIE	10	3:14:34	0.7479	2:25:30	14	KYC	大島 茂樹
"	3402	アモルファス	26	3:33:29	0.6843	2:26:05	15	津	石田 喜造
"	3813	スターダスト	19	3:24:31	0.7183	2:26:54	16	津	加藤 重雄
"	1432	Coo Coo	20	3:24:34	0.7193	2:27:08	17	OYC	宮地 進
"	3086	ばっかす	16	3:23:13	0.7269	2:27:43	18	YYC	山本 隆之
"	2765	オセアニッド	13	3:21:12	0.7396	2:28:48	19	幡 豆	後藤 康夫
"	3266	フリーク	28	3:43:26	0.6662	2:28:51	20	津	安達 敏文
"	2831	SEIRYU	27	3:38:53	0.6843	2:29:46	11	YYC	森田 純夫
"	3260	プロボックス	21	3:27:18	0.7322	2:31:47	22	YYC	服部 悟
"	3211	メルキュール III	22	3:27:26	0.7322	2:31:52	23	OYC	大矢 隆
"	3482	MANTA 21	17	3:24:22	0.7479	2:32:50	24	四日市	伊藤 精基
"	2668	鈴 商	14	3:22:24	0.7570	2:33:13	25	津	鈴木 敏夫
"	2927	ハリマオ 5	25	3:31:48	0.7258	2:33:43	26	YYC	藤山 卓男
"	2362	ガリバー	23	3:29:26	0.7375	2:34:27	27	津	下津 芳郎
"	1891	KAISER	29	3:49:03	0.6795	2:35:38	28	五ヶ所	石川 均
"	3525	八 洲	①	2:49:02	0.9960	2:48:21	29	四日市	佐野 功城
C	2672	ピーターパン	②	3:03:26	0.6662	2:02:12	①	YYC	水谷 節生
"	1975	赤トンボ	4	3:05:27	0.6783	2:05:47	②	YYC	杉山 保男
"	1918	トムボーイ	①	2:55:47	0.7322	2:08:42	③	YYC	阿部 嶺男
"	2784	ロンサムレディ	5	3:07:08	0.6913	2:09:21	④	津	坂 節
"	3432	しいはみんぐ	③	3:03:50	0.7322	2:14:36	⑤	YYC	市川 政明
"	2472	キャンディキャンディ	6	4:02:12	0.6650	2:41:25	6	YYC	高安 光夫
"	1640	アルコバレーノ	7	4:06:23	0.7050	2:53:42	7	YYC	加藤 蔵男

かし、我々は後続をむしろ引き離しつつある。もうひとつマークを折り返して、リーチングからアビーム。即席のパーパーホーラーでジブをトリムし、逃げ切り態勢に入る。トップの〈八州〉がセイルダウンするのが見える。ガンバレ、フィニッシュは近いゾ。

記念すべき10回大会の優勝カップと女性最多乗艇のレデース賞もいただいてとてもハッピーなレースでした。

いつもながら四日市、津の皆様の前夜祭、レース運営の気配りに心からお礼申し上げます。

## 第10回伊勢湾合同レース

〈芳夢〉オーナー 加藤芳正

私達〈芳夢〉レーシングチームは、まだレース経験も1年に満たない未熟な者達ばかりの集まりですが、レース当日は戸塚ヨットスクールで鍛えられた名スキッパーのおかげで何とか準優勝させて頂きました。コースはやや単調気味で、微風の中津沖潮流ブイへ向けてスタートした。

1時間も走ると風はクローズドリーチからアビームとなり、スタートに出遅れた私達はいち早くスピナーカーを上げた。〈富羊〉、〈チアフル〉、〈シュビシュ

バ〉などが先行していたが、スピナーを上げてからは快調な走りを見せ、やっと先頭集団をとらえることができた。コースは岸寄りをねらった1艇を除き、沖出しと中間コースに分れた。私達は中間コースを取り先頭集団に合流したが、30フィート艇ではHitec 30の〈ケリダ〉がやや風下で数十艇身先行していた。何とか抜きたいと必死にスピナーのトリムをくり返したが、潮流ブイまでその差は全く縮まらなかった。潮流ブイを回航後はやや上り気味のクローズドリーチ、風速は12ノットくらいに上がってきた。ジブセールは、迷ったが結局交換せずライトゼノアのままで帆走した。潮流ブイ回航前にヘビーに交換しておけば良かったのかも知れない。後続艇よりはスピードが勝っていると思われるが、先行艇の〈ケリダ〉にはほとんど近づけない。第2マークを回航し最終legに入ったが、スピナーを上げるかどうか迷った。〈フローレス〉はスピナーを上げたがややトラブル気味、〈ケリダ〉はジブのまま帆走した。私達はアビームよりクローズドリーチに近いと判断しスピナーは上げなかった。結局最後まで〈ケリダ〉を抜くことができずレースは終了してしまった。〈八島〉、〈カレラ〉、〈フローレス〉、〈ケリダ〉に続いて着順5位であった。レース経験の少ない私達にとって、初参加の伊勢湾合同レースは本当に楽しいレースでした。

## 第11回 五ヶ所湾合同レース

'86.4.27

総合順位	艇名	クラス順位	フリート	T. C. F	所要時間	修正時間	着順
③	長 良	A-①	幡 豆	0.7396	9:45:36	7:13:06	6
4	EPICUREAN	A-2	武 豊	0.8050	9:06:35	7:19:59	2
5	カ レ ラ	A-3	幡 豆	0.8230	9:04:05	7:27:46	1
6	桃 太 郎	A-4	武 豊	0.7570	10:05:59	7:38:43	①
7	VIND 7	A-5	五ヶ所	0.8292	9:13:20	7:38:49	8
10	コルセア III	A-6	富 貴	0.7892	9:48:57	7:44:47	3
							7
①	CHUVE CHUVA	B-①	四日市	0.7385	9:40:15	7:08:30	
②	オセアニッド	B-2	幡 豆	0.7396	9:45:33	7:13:04	4
8	ASUKA III	B-3	武 豊	0.7343	10:27:02	7:40:25	5
	ホライズン 5		碧 南	0.7343	DNF		9
	CHEERFUL		四日市	0.7343	DNF		
	RAFALE		五ヶ所	0.7364	DNF		
9	モシタイ	C-①	武 豊	0.7448	10:20:45	7:42:20	10
11	ビプロス III	C-2	"	0.7519	10:23:44	7:48:59	11
12	マー ル 3	C-3	富 貴	0.7343	10:52:50	7:59:22	12
14	ニューギニア II	C-4	武 豊	0.7193	11:17:24	8:07:15	14
15	クォーターデッキ	C-5	"	0.7322	11:06:25	8:07:57	13
16	酒 雪	C-6	五ヶ所	0.7193	11:21:53	8:10:28	15
17	サンチョパンサ	C-7	富 貴	0.7106	11:34:13	8:13:18	16
	ビーナス III		武 豊	0.7322	DNF		
13	くんでる	D-①	武 豊	0.6901	11:34:43	7:59:25	17
18	KAISER	D-2	五ヶ所	0.6783	12:15:07	8:18:37	18
19	チル・チル II	D-3	富 貴	0.7193	12:52:03	9:15:20	19
	フ ジ III		武 豊	0.6890	DNF		
	HELIOS		幡 豆	0.7215	DNF		
	FUNNY		碧 南	0.7050	DNF		

## SSBMサマーレガッタ

本年第2回目の相模湾スモールボートミーティング(SSBM)が、江の島沖のオリンピックコースで6月8日行なわれた。

前々日来の雨天が、当日にはまぶしいばかりの快晴と安定した南風となり、楽しさをモットーとするスモールボートミーティングには絶好の日和となった。

参加艇は東は遠路横浜から、西は恐怖の巻波を乗り越えて馬入ヨットクラブからの参加を得、実に23艇の記録の大フリートとなった。

コース170°, 1.2マイル, 風速5~6 M の中を1100, きれいなスタートが切られた。スターボアのまゝ東海面へ行く艇が8割で、東海面に人気が集まる。当日は北流の潮が一部非常に強く、結果的には東海面組が先行し〈あい〉(ヤマハ21S)がトップで第一上マークを回航。続いて〈コーラル・スプラッシュ〉(ヤマハ24), プレステイジ(ヤマハ21C), 〈スイスイ〉(H-19)等が秒差で回る。前回1着のブルーパルサーが来ない。何と西海面でラダー切損である。無念のリタイア。

上マークをダントツで回った〈あい〉がサイドマークを発見出来ず、遠回りするのを尻目に秒差で回った



1着の〈SUI SUI〉 撮影:木村太郎

艇同士のデッドヒートとなり、下マークでは〈コーラル・スプラッシュ〉, 〈スイスイ〉, 〈プレステイジ〉, 〈ダイヤモンド・エンゼル〉の順となる。第2上へのレグで江の島の〈スイスイ〉が〈コーラル・スプラッシュ〉を捕え、そのままフィニッシュに逃げ込んだ。

こうした中で今回初登場のシングルハンダーの〈ロンサム・ボーイ〉(ヤマハ25MK II)や、レースは生

## SSBMサマーレガッタ結果

於:江ノ島沖オリンピック・コース 6月8日(日) 天候:晴 風向:S 風速:6メートル(スタート時)

着順	艇名	艇種	スキッパー	ホームポート	各マーク回航				フィニッシュ
					第1上	第1下	第2上	第2下	
1	SUI SUI	林 19	大森 泰仁	江ノ島	⑤	②	①	①	① 1.35.45
2	CORAL SPLUSH	Y-24	下江 浩	芦名マリーナ	②	①	②	②	② 1.37.13
3	PRESTIGE	Y-21C	近藤 等	諸磯京急マリーナ	③	③	③	③	③ 1.47.03
4	FINLANDIA	キャナル23	藤島 幹郎	葉山マリーナ	④	⑤	④	④	④ 1.51.50
5	DAIMOND ANGEL	林 19	松谷 克己	江ノ島	⑥	④	⑤	⑤	⑤ 1.53.13
6	BELLE AMIE	Y-21CEX	藤原 克己	横浜マリーナ	⑩	⑥	⑥	⑥	⑥ 1.57.57
7	異邦人	Y-21JOG II	小山 祐	京急諸磯マリーナ	⑪	⑧	⑨	⑧	⑦ 2.02.17
8	啓 II	Y-21C	湯田 啓二	逗子マリーナ	⑨	⑩	⑦	⑦	⑧ 2.04.00
9	あい	Y-21S	村木 裕	葉山マリーナ	①	②②	⑩	⑩	⑨ 2.06.00
10	LONESOME BOY Ⅱ	Y-25Mk II	中原 真一	馬入川	⑬	⑭	⑪	⑫	⑩ 2.09.35
11	那由田	ベラ 24	有本 徹	京急油壺マリーナ	⑦	⑦	⑧	⑨	⑪ 2.10.45
12	まれし	熊沢 21	木村 和子	葉山マリーナ	⑬	⑬	⑫	⑪	⑫ 2.11.50
13	SPRING SEA	レプトン 21	伊達 博	江ノ島	⑮	⑪	⑬	⑮	⑬ 2.12.55
14	メビウス	Y-21JOG	金子 英明	京急諸磯マリーナ	⑮	⑮	⑭	⑭	⑭ 2.13.37
15	しんばい	コロンビア 22	荏原	江ノ島	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮ 2.14.27
16	ESMERALDA	Y-21JOG	藤井 孝	葉山マリーナ	⑭	⑬	⑮	⑮	⑮ 2.14.58
17	J O Y	Y-21JOG	土屋 正二	逗子マリーナ	⑫	⑫	⑮	⑮	⑮ 2.15.45
18	LUCY	Y-21C	京谷 弘也	葉山マリーナ	⑧	⑨	⑩	⑩	⑮ 2.16.00
19	J A M	リュンドメ	加納 孝男	葉山マリーナ	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮ 2.18.00*①
20	ドラヘン	Y-21JOG	龍 誠之助	諸磯京急マリーナ	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮ 2.19.08
21	美童女(みやらび)	レインジャー23	吉川 俊郎	シーボニア	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮ 2.29.48
22	SUNBURN	リュンドメ	土橋 利昭	BYC(平塚)	⑮	⑮	⑮	⑮	⑮ 2.32.03*②
	BLUE PULSAR	林 19	黒田 高正	江ノ島					DNF
	WHISPER	Y-22DX	太竹 悟	BYC(平塚)					DNC
	そよかぜ	Y-23	吉川 秀敏	金沢八景					DNC

(\*印はマイクロトン・クラスの順位)

まれて初めてと言う〈スプリング・シー〉が着実に走り、それぞれ10着、13着と中位を占める等、幅広いヨットライフを楽しむSSBMの片鱗がうかがえる。

レース展開を各レグ毎のラップタイムで見ると〈あい〉(ヤマハ21C)の驚異的な上りスピードが注目され、スタート→第1上、及び下→第2上のタイムは他を圧していた。また、上→サイド→下では〈ペラミ〉(ヤマハ21C)がベストラップをもっており、ヤマハ21勢のポテンシャルからみて次の躍進が期待される。

次回ミッドサマー・レガッタは8月3日、葉山(コースはエボシ岩回航)を予定しており、前夜は逗子の花火大会を肴に、バーベキューパーティーを予定している。(SSBM 江ノ島グループ松崎孝男:記)

問い合わせは……〒104 東京都中央区銀座8-85  
陽栄銀座ビル内 ヤマハ発動機株  
東京マリン企画室  
小野澤秀典

レース協力 ヤマハ発動機株  
関東自動車工業株  
江ノ島ヨットクラブ

## ■ 関東支部オープンレース のお知らせ

(社)日本外洋帆走協会  
関東支部 帆走委員会

昭和61年度下半期、クルーザーレーティング適用のレースプランを下記の日程で行います。奮ってご参加ください。

レース形式は、オープンレースとし、だれでも参加できるようにし、各レース終了後、パーティと表彰式も行います。

夕日を眺めながら、レースをさかんに冷たいビールを飲み、心ゆくまで楽しみたいと思います。

記

〈サマーレガッタのお知らせ〉

- 8月3日 沿岸ポイントレース シーボニアフリート  
8月10日 エボシ岩回航レース 葉山・江の島フリート  
8月17日 沿岸ポイントレース 小網代フリート  
8月24日 沿岸ポイントレース 諸磯フリート  
〈オートムレガッタのお知らせ〉  
9月21日 熱海レース  
10月19日 沿岸ポイントレース  
11月9日 沿岸ポイントレース

以上

上記申込み等くわしいことについてのお問合せは  
NORC までご連絡下さい。

NORC ☎03(504)1911~3

## 日本船舶振興会補助事業

### ■ 大島ランデブーのお知らせ

横浜フリートキャプテン安岡信一

いよいよ夏のシーズンとなりました。横浜フリートでは、日頃より自由に使用させていただいている、大島波浮港の地元の皆様に感謝する気持ちを現す為の交流を主旨としてランデブーを開催してきましたが、今回を以て13回目となりました。また我々ヨット乗りも年一度、本土を離れた島の港で一同に会し一夜を楽しむ過ごしたいと思いますので奮って御参加下さいませよう、御案内申し上げます。

日時 8月2日(土) 09:00波浮港集合  
10:00より地元中学生のヨット試乗会  
13:00より希望者によりテニスとボーリング  
パーティ 19:00より波浮港漁協岸壁にて  
会費 一名 3,500円  
申込み金 一艇 3,000円  
申込み先 横浜フリートキャプテン 安岡信一  
川崎市幸区南幸町1丁目33番地 ☎044(544)7885  
又は NORC 関東支部事務局  
申込み期日 7月26日 厳守の事

### 追加のお知らせ

6月号18頁に掲載した初島レース(1986年5月17日18:00スタート)の成績表に下記の2艇が載っておりませんでしたので、追加訂正し、関係者にお詫び致します。

○クラス I 〈FUJI 3〉(FRE46) オーナー 藤本達雄  
S.No. 2112 着順16位 総合38位 クラス24位

○クラス I 〈BIG APPLE〉(HOL44) オーナー 松田栄夫  
S.No. 2299 着順9位 総合37位 クラス23位

### 初島レースクルーザーレーティング成績表

スタート時間 1986.5.18 17時50分

艇名	SAIL番号	着順	修正順位
EBONY 2	2959	2	1
WOOD STOCK	3363	1	2
FLYING TINKERBEL	3305	3	3
いざなみ	1642	5	4
ANNABEL LEE	3487	4	5
あきつき	3497	6	6
C-3 PO	3505	RET	

OFFSHORE 第136号 昭和61年7月15日発行  
毎月1回15日発行  
昭和52年7月21日 第三種郵便物認可  
1部定価300円(郵送料45円)  
発行 社団法人 日本外洋帆走協会  
東京都港区虎ノ門1-15-16(船舶振興ビル4階)  
電話・東京03(504)1911~3 〒105  
郵便振替番号 2-21787  
印刷 正進社印刷株式会社

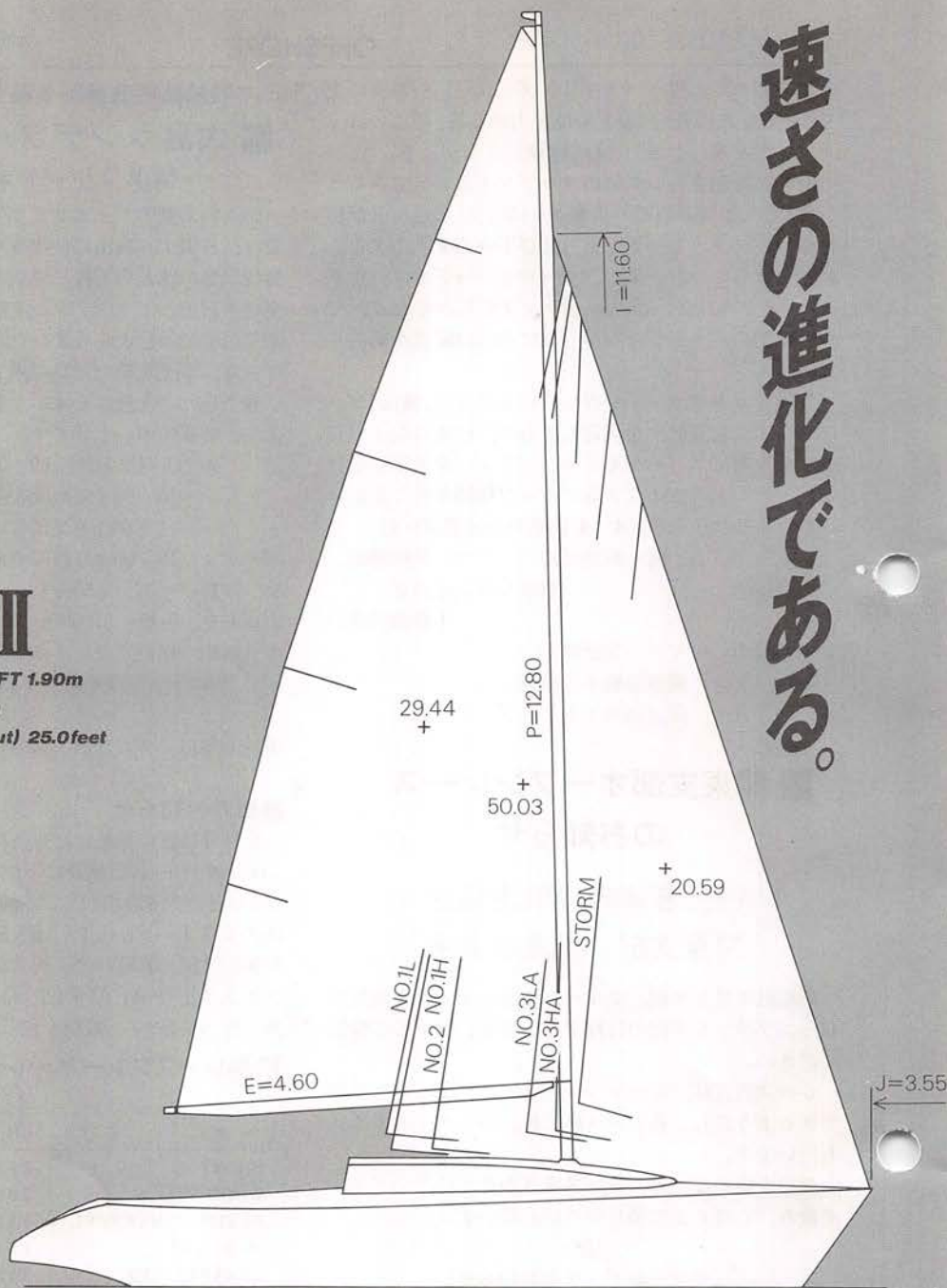
速さの進化である。

# YAMAHA-R34II

L.O.A. 10.40m・BEAM 3.35m・DRAFT 1.90m

DISPL 3.70ton・BALLAST 1.80ton

SAIL AREA 50.03m<sup>2</sup>・I.O.R.R.(about) 25.0feet



完成度の高さと、今なお第一線の戦闘力を誇るY-R34。その名艇の基本バランスをベースに、あらゆる面でより一層の高性能を目指したのが、このY-R34IIです。最新の素材・工法を導入し、艇体の軽量化・強化を実現。さらにパラストのウエイトを高め、重量集中とスタビリティを確保。セイルエリアを拡大し、オールラウンドな帆走性能を追求。デッキデザインやレイアウト、そしてインテリアも一新。これはまさに、速さの進化と呼べるでしょう。



## YAMAHA-R SERIES

	Y-R30STD	Y-C35CR	Y-R38	Y-R FARR40
L.O.A.	8.98m	10.60m	11.51m	12.19m
BEAM	3.10m	3.35m	3.60m	3.99m
DRAFT	1.85m	1.90m	2.10m	2.29m
DISPL	2.70ton	3.95ton	5.10ton	5.76ton
BALLAST	1.20ton	1.80ton	2.45ton	3.39ton
SAIL AREA	38.57m <sup>2</sup>	45.73m <sup>2</sup>	62.26m <sup>2</sup>	73.66m <sup>2</sup>
I.O.R.R.(about)	22.5feet	25.45feet	29.1feet	30.5feet

●Rシリーズは基本仕様をベースに、お客様の要求に従い、仕様の変更、レーティング対策などを打合せの上建造いたします。  
●なお、シリーズ艇以外のご相談もお受けいたします。

資料ご希望の方は—  
〒438 静岡県磐田市新貝2500 ヤマハ発動機株式会社 宣伝課OS係

YAMAHA

海の安全—みんなの願い  
点検整備は忘れずに  
天気予報を確認しよう。